

# 平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡 烏丸丸太町遺跡

—大門町の調査—

2016年

古代文化調査会



## 例　　言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市上京区榎木町通烏丸西入る養安町242番地・大門町260番地において、サンヨーホームズ株式会社による集合住宅建設に伴い実施した平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡・烏丸丸太町遺跡（文化財保護課番号15H277）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査（16MUMA）はサンヨーホームズ株式会社より委託を受けた古代文化調査会の小松武彦が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集・執筆は小松武彦がおこなった。
5. 図面及び遺構・遺物の整理、遺構の製図は小松がおこない、遺物の実測は板谷桃代が担当した。
6. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系VIによる。記載した数値はm単位で、水準はT.P.（東京湾平均海面高度）である。
7. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の25,000分の1（京都東北部）、京都市都市計画局発行の2,500分の1の地図（聚楽廻・御所）を調整し、使用した。
8. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
9. 遺物番号は実測図・写真ともに共通している。
10. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

赤松佳奈　家原圭太　石川康浩　馬瀬智光　奥井智子　鷺海正敬　梶川敏夫　熊井亮介  
熊谷舞子　黒須亜希子　鈴木久史　城一将弘　田崎雅己　中井　均　西森正晃　新田和央  
藤原武士　堀　大輔　宮原健吾　山田邦和  
(株)明輝建設　(株)大高建設　(公財)京都市埋蔵文化財研究所　(株)京都遺跡調査会  
サンヨーホームズ(株)

## 本文目次

平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡・烏丸丸太町遺跡

I 調査の経過 .....	1
II 遺構 .....	4
III 遺物 .....	19
IV まとめ .....	31

## 図版目次

図版 1 遺跡 1	A調査区第1面全景（北から）
図版 2 遺跡 1	A調査区第2面全景（北から）
	2 A調査区第3面全景（北から）
図版 3 遺跡 1	A調査区第4面全景（北から）
	2 A調査区柵列1・濠8（西から）
図版 4 遺跡 1	A調査区柵列1のピット57（北から）
	2 A調査区石組遺構27（西から）
	3 A調査区濠78A（西から）
	4 A調査区溝38（北から）
	5 A調査区濠78B（西から）
図版 5 遺跡 1	A調査区土壙161（北から）
	2 A調査区土壙177（西から）
	3 A調査区弥生土器出土（西から）
	4 A拡張区濠8拡張（西から）
図版 6 遺跡 1	B調査区第1面全景（東から）
	2 B調査区第2面全景（東から）
図版 7 遺跡 1	B調査区第3面全景（東から）
	2 B調査区集石260断面（東から）
	3 B調査区井戸295（南から）

- 4 B調査区石室337（北から）  
 5 B調査区土壙407（北から）
- 図版8 遺物 石組遺構27出土遺物  
 図版9 遺物 石組遺構27・濠8・溝38出土遺物  
 図版10 遺物 溝38・土壙75・土壙107・溝116・土壙161・土壙178出土遺物  
 図版11 遺物 土壙267・土壙281・第2面整地層・土壙401・土壙281・土壙360出土遺物  
 図版12 遺物 石組遺構27・B調査区第1面・濠8・濠78A・溝116・集石220・B調査区第2面  
 掘下げ・土壙145出土遺物

## 挿 図 目 次

図1 調査地点位置図.....	1
図2 調査地位置図.....	2
図3 平安京条坊と調査地位置図.....	2
図4 四行八門と調査位置関係図.....	2
図5 記者発表風景（南から）.....	3
図6 パネル展示と見学会風景（西から）.....	3
図7 A調査区東壁断面実測図.....	5
図8 A調査区第1面平面実測図.....	6
図9 A調査区第2面平面実測図.....	7
図10 A調査区第3面平面実測図.....	8
図11 A調査区第4面平面実測図.....	9
図12 A調査区建物1実測図.....	10
図13 A調査区柵列1実測図.....	10
図14 A調査区石組遺構27・濠78A実測図.....	11
図15 A調査区井戸101実測図.....	11
図16 A調査区溝38実測図.....	12
図17 A調査区溝116実測図.....	12
図18 A調査区土壙161実測図.....	13
図19 A調査区土壙177実測図.....	13
図20 B調査区北壁断面実測図.....	14
図21 B調査区第1面平面実測図.....	15
図22 B調査区第2面平面実測図.....	16
図23 B調査区第3面平面実測図.....	17

図24	B調査区集石326実測図	18
図25	B調査区石室337実測図	18
図26	石組遺構27出土土器実測図 1	20
図27	石組遺構27出土土器実測図 2	21
図28	濠8出土土器実測図	21
図29	濠78A出土土器実測図	22
図30	井戸101出土土器実測図	22
図31	溝38出土土器実測図	23
図32	土壤75出土土器実測図	23
図33	土壤107出土土器実測図	24
図34	溝116出土土器実測図	24
図35	土壤161出土土器実測図	25
図36	土壤178出土土器実測図	25
図37	土壤177・弥生包含層出土土器実測図	25
図38	土壤246・267出土土器実測図	25
図39	土壤281出土土器実測図	26
図40	土壤370・337・341・2面整地層・土壤324出土土器実測図	26
図41	土壤375・417・401出土土器実測図	27
図42	土壤407出土土器実測図	27
図43	軒丸瓦拓影・実測図	28
図44	軒平瓦拓影・実測図	29
図45	銭貨拓影	29
図46	石製品・石造物実測図・写真	30
図47	調査地の遺構配置図	31
図48	既調査地点と旧二条城推定復元図	33
図49	戦国期の京都と武衛陣・旧二条城位置図	34

## 表 目 次

表1	遺構概要表	4
表2	遺物概要表	19

# 平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡 烏丸丸太町遺跡

## I 調査の経過

### (1) 調査に至る経緯

調査地は京都市上京区櫻木町通烏丸西入る養安町242番地・大門町260番地である。当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である平安京左京二条三坊九町、旧二条城跡、及び烏丸丸太町遺跡に該当する。この地にサンヨーホームズ株式会社による共同住宅建設の計画がなされた。建設地は旧二条城の城内に推定され、濠などの遺構が想定されるところであり、工事に先立ち発掘調査を実施することとなった。京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導のもと、施主との協議によって、古代文化調査会が発掘調査を行うことになった。

### (2) 調査の経過

敷地は平安京左京二条三坊九町の北西側に位置し、北は大炊御門大路、西は室町小路に接して

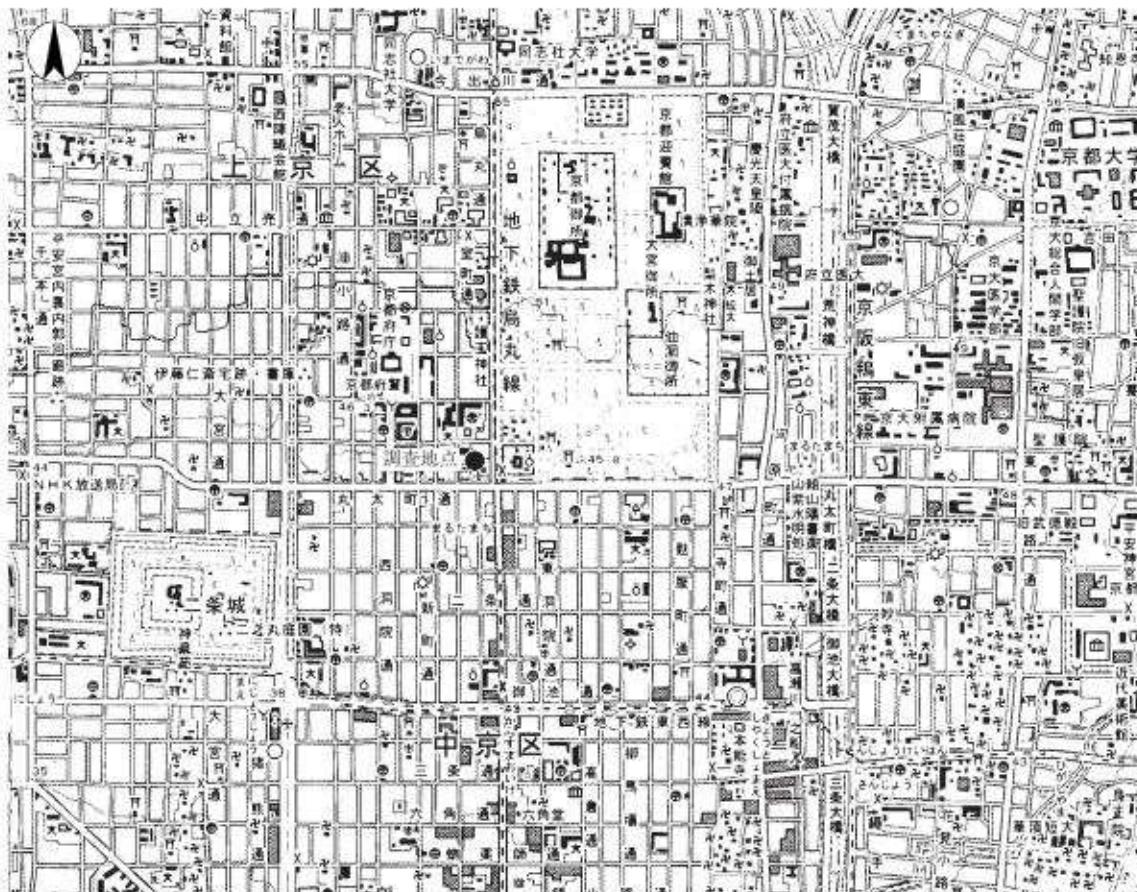


図1 調査地点位置図 (1/25,000)

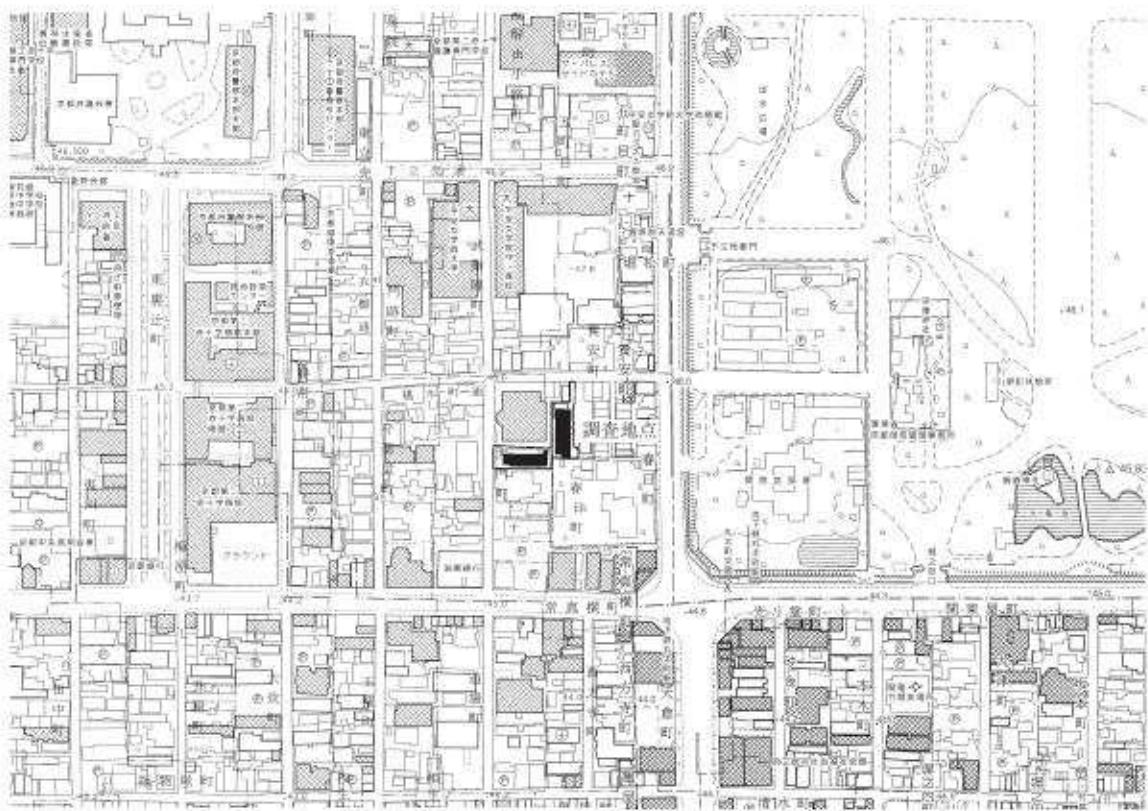


図2 調査地位置図 (1/5,000)

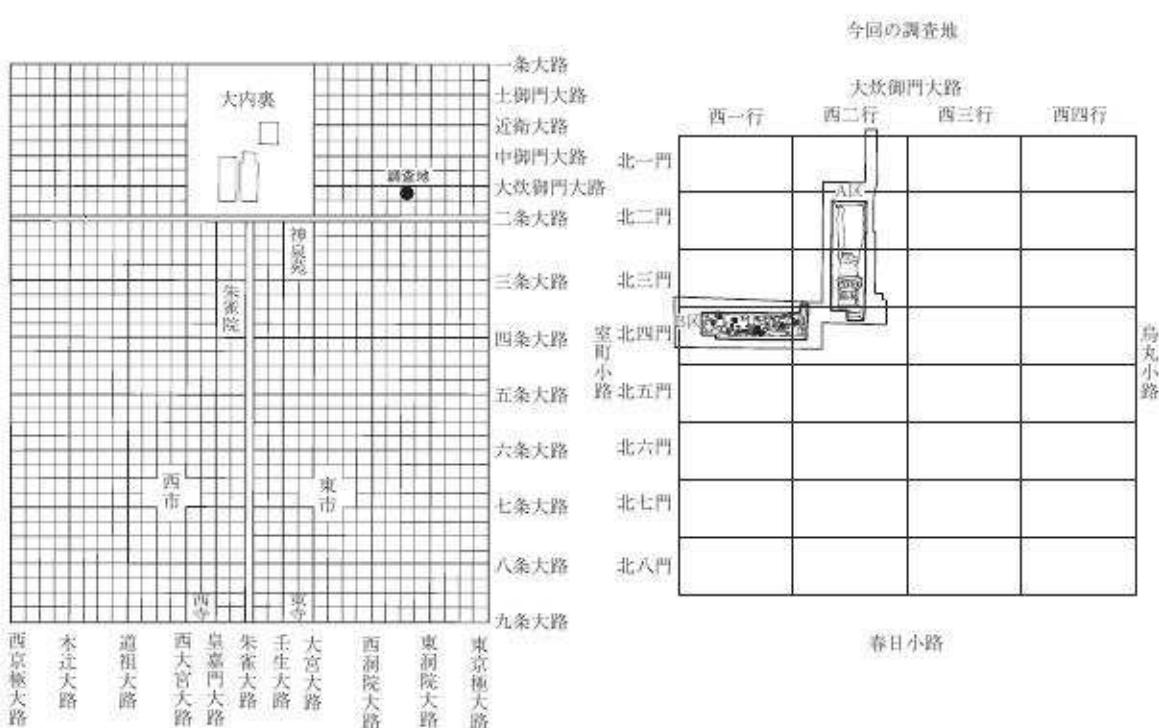


図3 平安京条坊と調査地位置図

図4 四行八門と調査位置関係図 (1/2,000)

いる。平安時代から鎌倉時代の当九町は文献史料は乏しく空白地である。室町時代には室町幕府の管領である斯波義将が貞治6年（1367）頃に邸宅を構える。斯波氏の当主が代々任じていた役職から当地が「武衛陣」と呼称されるようになった。その後12代当主斯波義寛の文明7年（1475）頃に拠点を移し、武衛陣は放棄される。永禄3年（1560）に室町幕府第13代將軍足利義輝が復興し、「武衛陣御所」として室町幕府の拠点とした。永禄8年（1565）、松永久通と三好三人衆は主君の三好義継とともに一万の軍勢を率いて武衛陣御所を襲撃した（永禄の変）。義輝は討死する。永禄11年（1568）、足利義昭（第15代將軍）を奉じて上洛した織田信長が永禄12年（1569）に再び、武衛陣を將軍の御所として造営する。これが後に、徳川家康が築城した現「二条城」と区別するために「旧二条城」と呼ばれる。築城の様子はポルトガルの宣教師ルイス・フロイスの『書簡』、『日本史』<sup>第1</sup>や山科言継の『言継卿記』<sup>第2</sup>に詳細な記載が残されている。規模は「二条勘解由小路武衛陣御所跡北東へ一町押広げ、堀をほらせ」とあり、三街（三町四方）の面積、内郭と外郭の二重の濠があったと考えられる。築城作業には1万5千人から2万5千人を動員し、資材不足は各寺院から石仏・石塔・木材を運ばせ、70日間の短期間で完成させたとある。天正元年（1573）、義昭は信長に反旗を翻し、対峙する。この時に防御のため濠を新たに掘り、数カ所に稟堡を備える。同年4月、信長は上京を焼き討ちし、二条御所を残してことごとく焼失する。同7月、義昭は宇治槇島城に移るが陥落し、義昭は京都を去る。天正4年（1576）、安土城普請のため御門などを壊して安土へ運ばせ、濠は上京衆に命じ埋めさせる。旧二条城は7年でその姿を消す。

調査は平成28年1月12日から同年4月30日までの間、北東側をA調査区、南西側をB調査区とし、調査面積471m<sup>2</sup>をA調査区は4面、B調査区は3面にわたって行った。5月12日に記者発表、14日から16日にパネル展示と遺跡見学会を実施し、3日間で1,017名の見学者があった。

調査の方法は、（公財）京都市埋蔵文化財研究所が作成した平面直角座標系VIのグリッドを使用し、A調査区の北東角を原点（X=-108,856.2 Y=-22,030.5）とする、東西方向にアラビア数字、南北方向にアルファベットを記号として付し、4mメッシュのグリッドを基本として遺構・遺物の記録をとった。なお、条坊は平安京の復元モデルを使用した。



図5 記者発表風景（南から）



図6 パネル展示と見学会風景（西から）

## II 遺構

### (1) A調査区

調査地の北東側で南北方向の調査区である。現表土は標高45.7mである。地山面（自然堆積層）は10YR6/6の灰黄褐色系の砂泥層で、標高は44.6m前後である。調査は30・33・34・35・38・53層の江戸時代前期の第1面から開始し、第2面は63・64・65層で室町時代から桃山時代。第3面は76・77・84・85層で平安時代後期～鎌倉時代である。第4面は88・90・層と102層（地山）である。

#### 第1面（江戸時代前期の遺構）

検出遺構は建物跡、集石、石組遺構、濠、柵列、土壙跡などがある。建物1は根石が据えられた南北3間以上、東西2間以上の建物である。柱間は南北が0.6～0.7m、東西は約1.0mで不揃いである。東面の庇か縁側と考えられる。

石組遺構27は南北3.5m、高さ1.5mで東面する。北、南側は石組は見られない。石材は0.2～0.7m大のものが5段ほどが残存している。全体像は不明である。貯水施設と考えられる。

濠8は東西方向の濠で検出長は7.2m、幅は7.1mで2段に掘られ、南側が浅く南肩から1.8m、北側は深く北肩から垂直に3.3m下がり、断面形状は逆台形を呈している。底部から1.5mまで泥土・シルト層が堆積する。埋土からXI期古～中の土器が出土しており、濠8はすぐには埋められず水路や貯水施設として再利用されたと思われる。検出位置から天正元年（1573）に新たに掘られた濠と考えられる。

柵列1は濠8の北肩部に東西に平行する柵列で検出長は6.2m、柱穴6基で5間であり、柱間は約1.0m、深さ0.6～1.2mである。濠8に付随する防御施設と思われる。

表1 遺構概要表

時代	A調査区遺構	備考
江戸時代前期 (第1面)	建物1・濠8、柵列1、石組遺構27	濠8は旧二条城の義昭が掘削した濠
室町時代～桃山時代 (第2面)	溝38、濠78A・78B、土壙75、集石77・97・81・82・井戸101	溝38・濠78Bは武衛陣御所の関連遺構
平安時代後期～鎌倉時代 (第3面)	土壙107・土壙161・溝116	
弥生時代～平安時代前期 (第4面)	土壙177・178・弥生包含層	

時代	B調査区遺構	備考
江戸時代前期 (第1面)	集石213・220～224・245・260・264・269・271・272・274・275・279・294・土壙246・267・雨落ち溝276	
室町時代～桃山時代 (第2面)	土壙281・234・341・348・360・370・溝290・井戸295・石室337集石317・318・326・373	
古墳時代～平安時代前期 (第3面)	土壙382・401・407・417・ビット406	

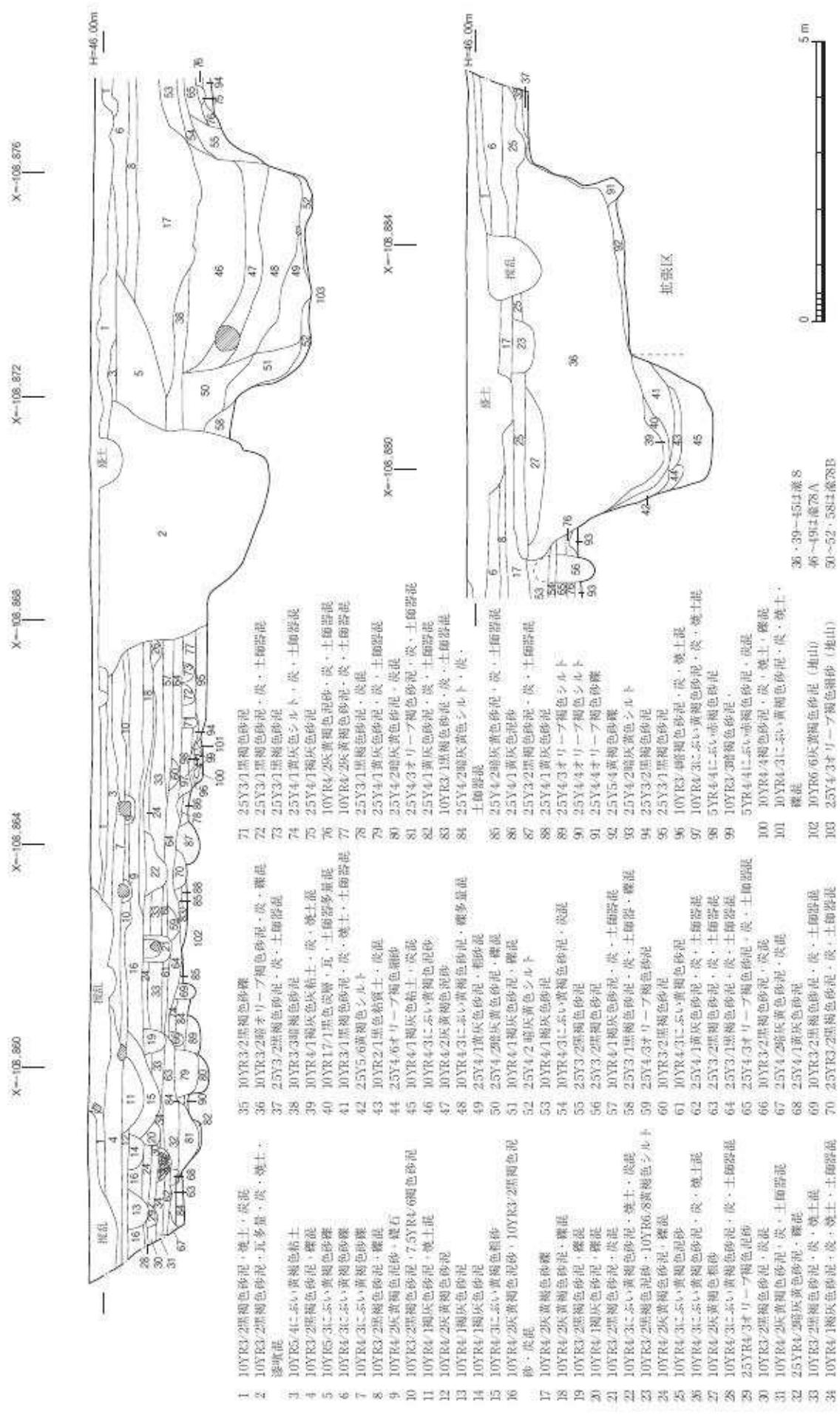


図7 A調査区東壁断面実測図 (1/100)

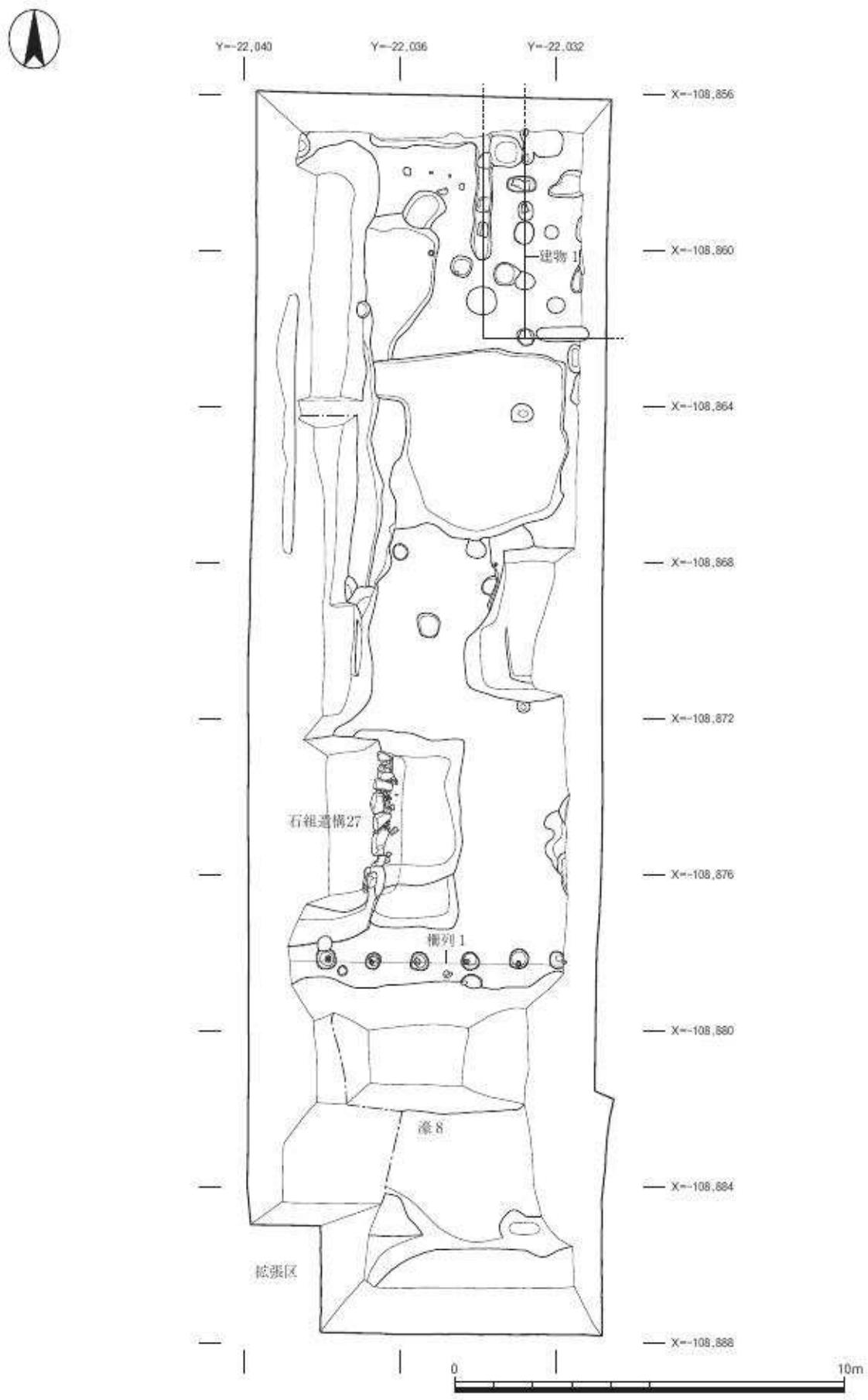


図8 A調査区第1面平面実測図 (1/150)

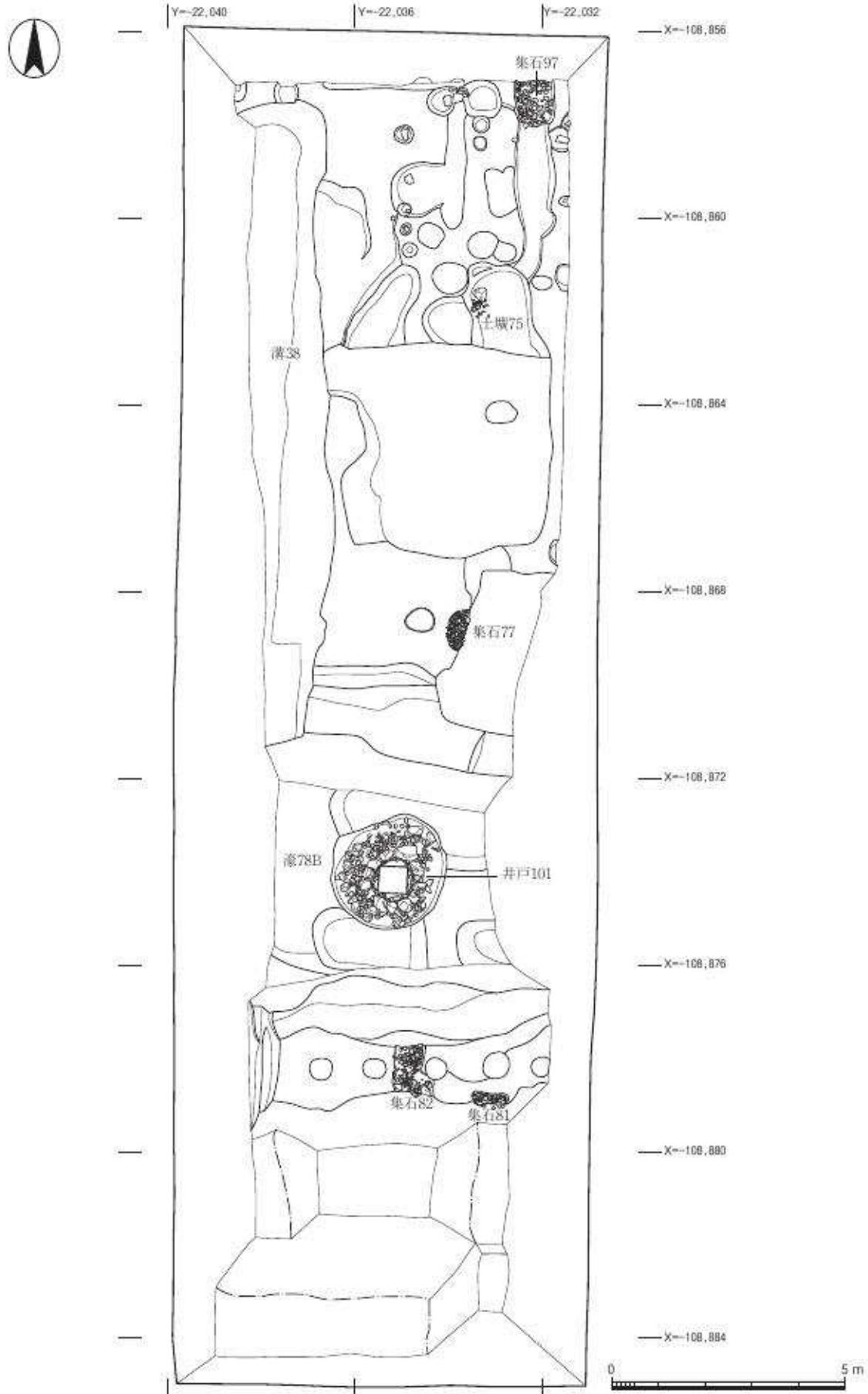


図9 A調査区第2面平面実測図 (1/125)

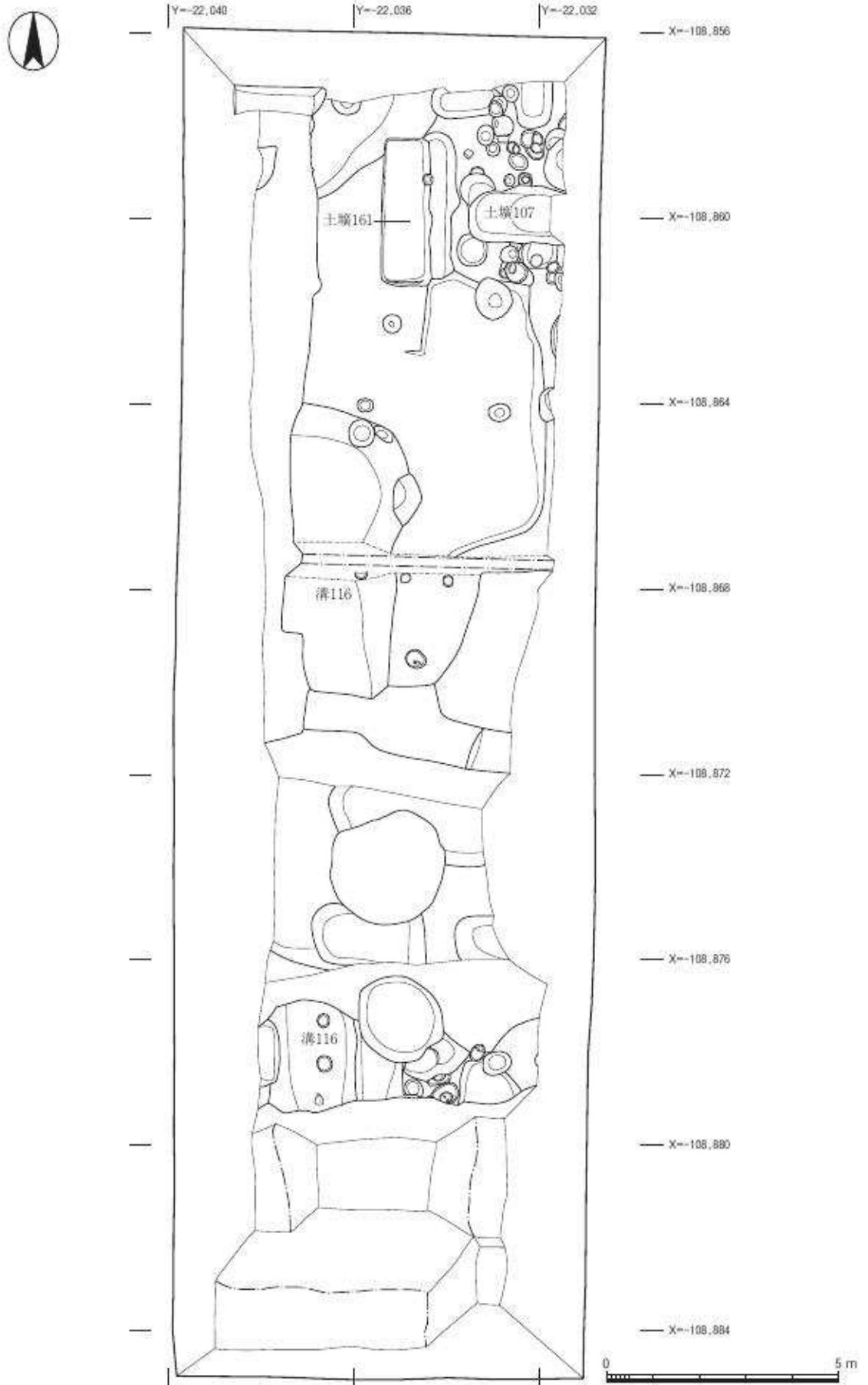


図10 A調査区第3面平面実測図 (1/125)

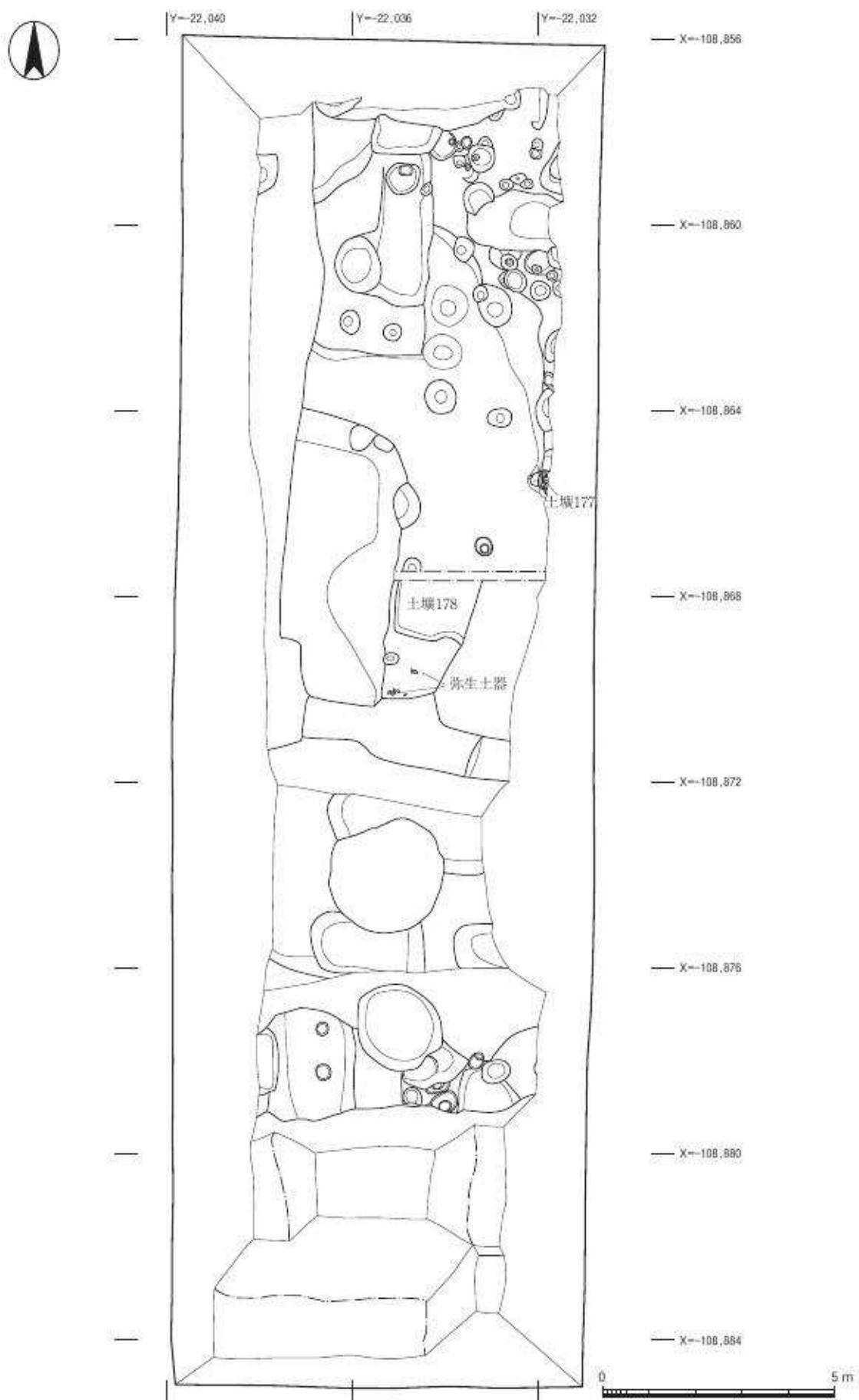


図11 A調査区第4面平面実測図 (1/125)

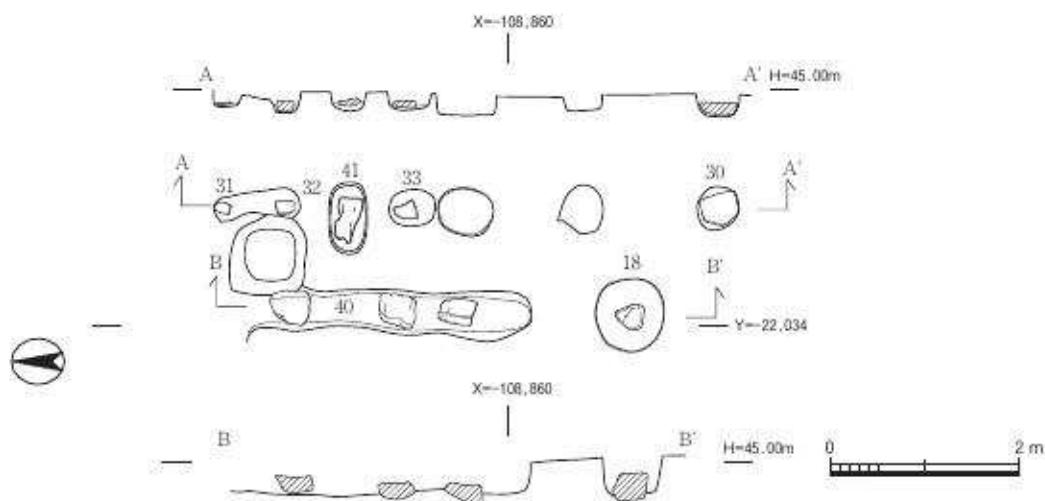


図12 A調査区建物1実測図 (1/80)

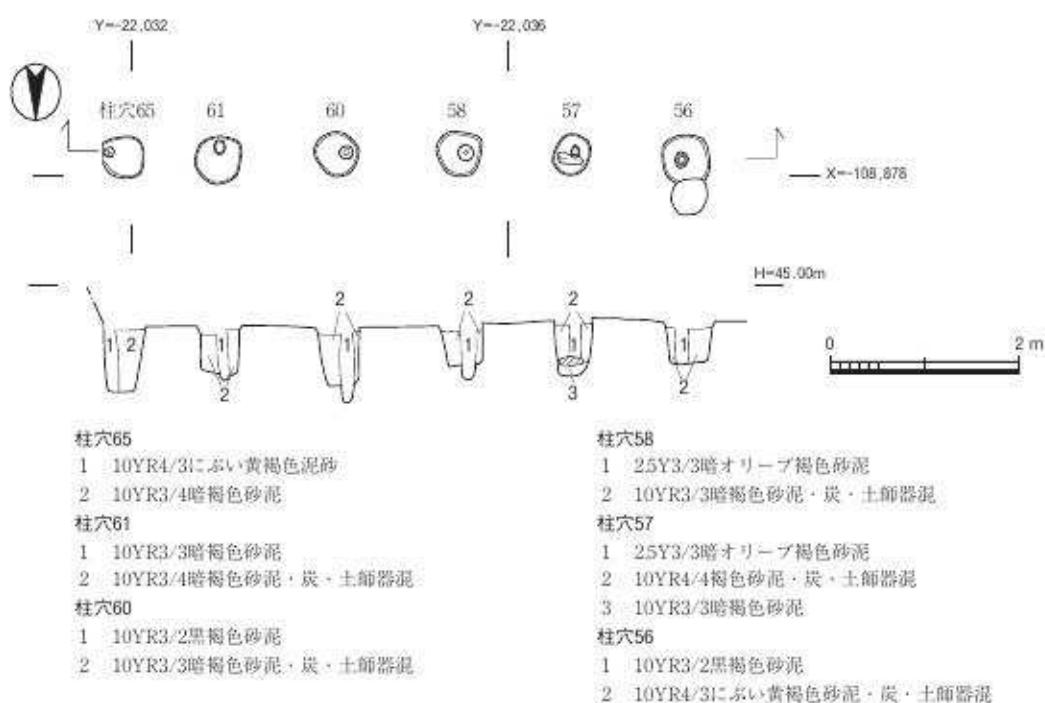


図13 A調査区構列1実測図 (1/80)

## 第2面 (室町時代後期から桃山時代の遺構)

検出遺構は溝、濠、井戸、土壙、集石、ピットなどがある。

溝38は南北方向の溝で検出長は11.4m、幅は1.5m以上、深さ1.0mである。北側には延びていなく、西側へ続くものと考えられる。埋土から10期新の土器が出土しており、武衛陣御所の時のものと考えられる。

濠は東西方向の重複する濠78A・Bの2条を検出した。濠78Aは78Bの上面で検出長は4.3m、幅は3.5~3.9m、深さ1.8mである。

濠78Bの検出長は5.8m、幅は4.9~5.1mで、犬走りを含めると6.2m、深さ2.1mである。底部に約0.2mの厚さでシルト層が堆積する。

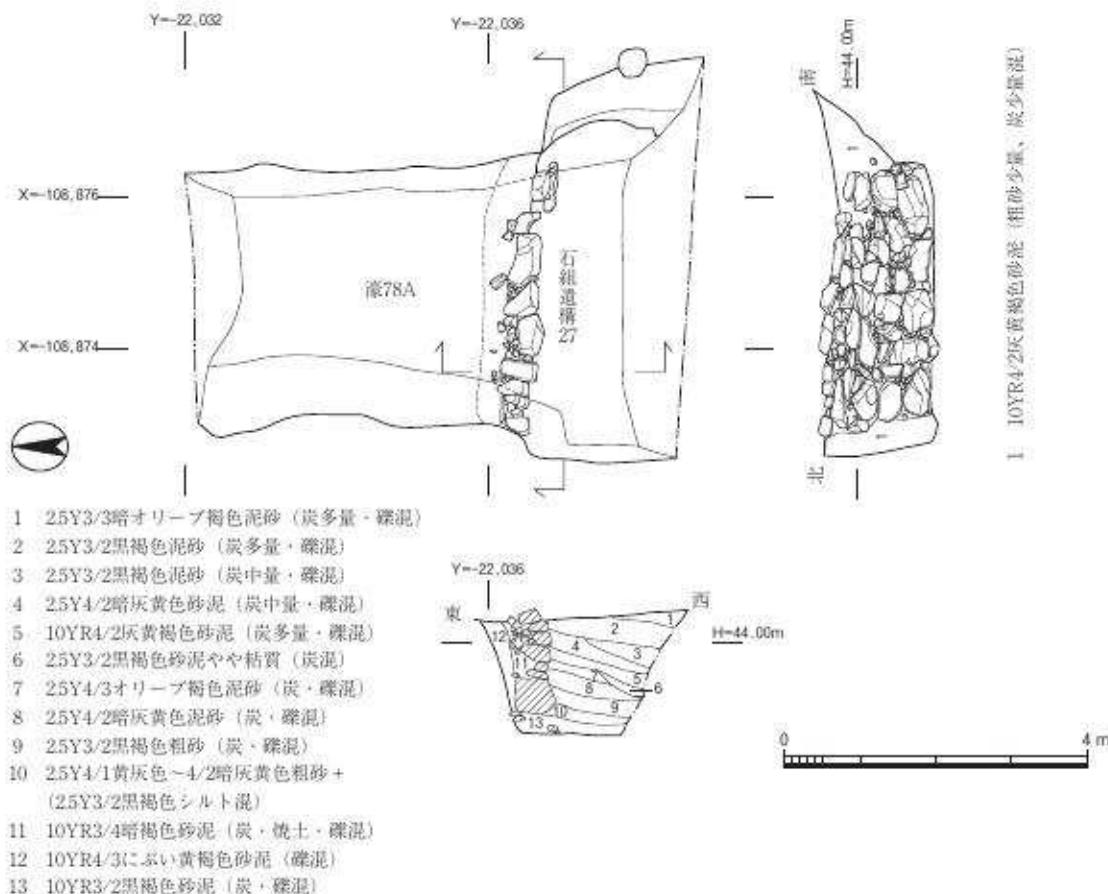


図14 A調査区石組遺構27・濠78A実測図 (1/100)

井戸101は濠78Bの下面で検出した石組の井戸である。直径2.5mの円形で、深さは検出面1.4mである。底には木枠が残存していた。

溝38と濠78Bは搅乱で接しないが、「武衛陣御所」に関連する遺構と考えられる。

土壌75は調査区北東で検出した。東西1.4m、南北1.7m以上、深さは0.3mである。

室町時代後期の遺構は土壌75、集石81・82・97などがある。

### 第3面 (平安時代後期から鎌倉時代)

検出遺構は溝、方形土壌、土壌、ピットなどがある。

土壌107は調査区北東側で検出した。南北1.2m、東西2.1m、深さ0.5mである。埋土は2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥でVII期古の鎌倉時代後半の土器がまとまって出土した。

溝116は南北方向の溝で検出長は8.6m、幅

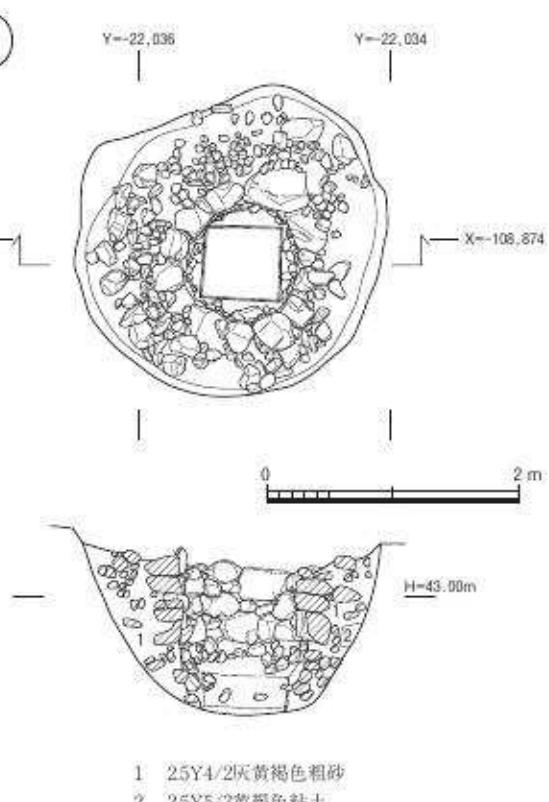


図15 A調査区井戸101実測図 (1/60)

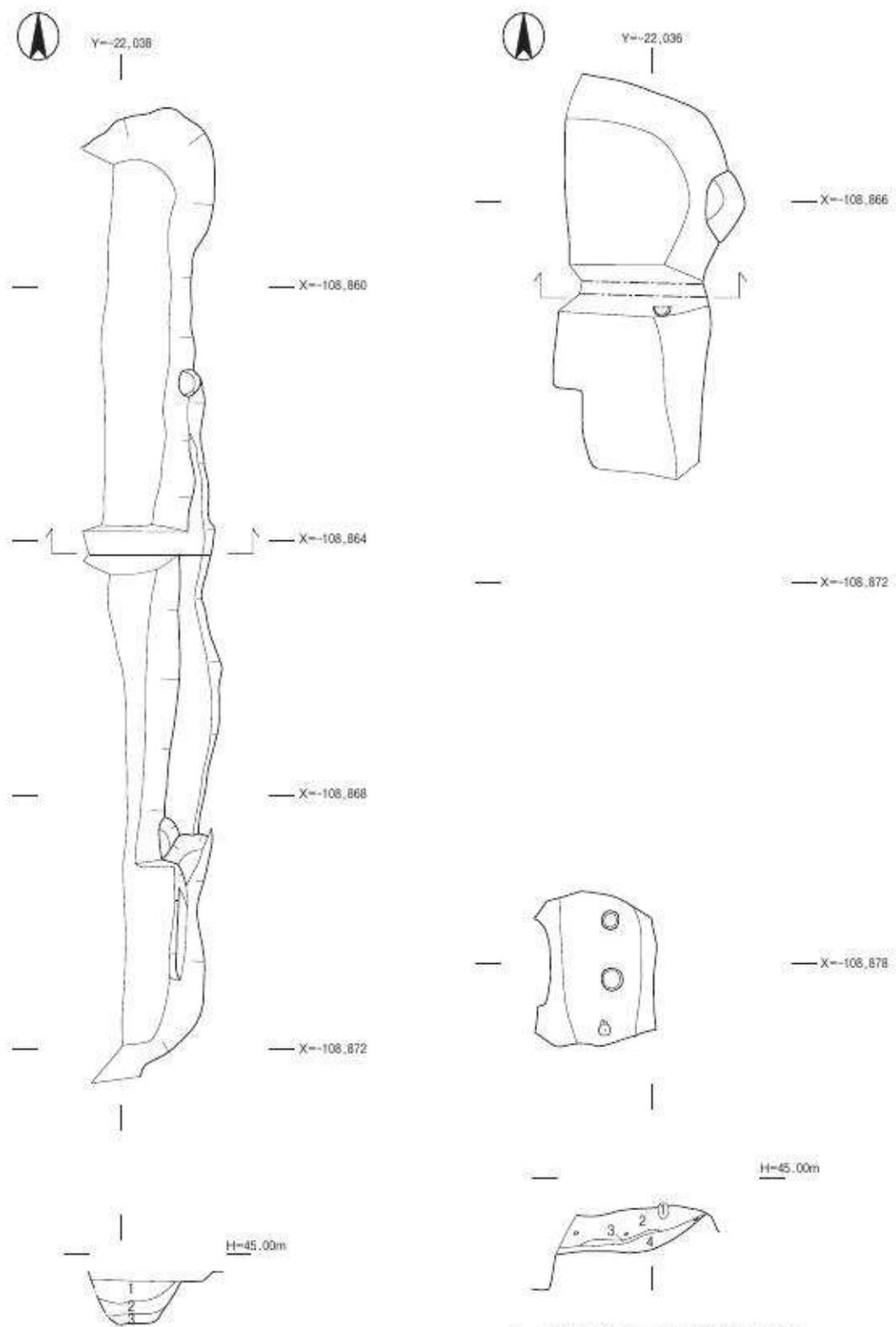


図16 A調査区溝38実測図 (1/100)

図17 A調査区溝116実測図 (1/100)

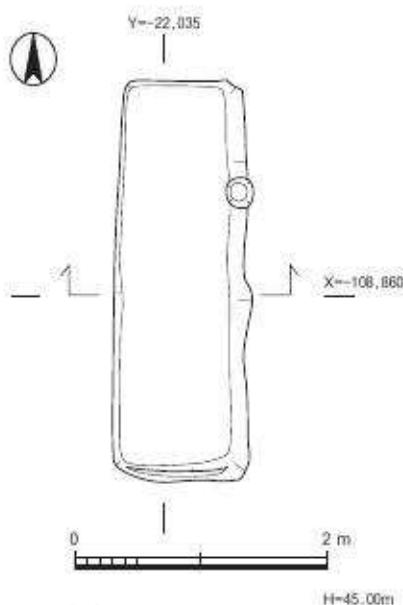


図18 A調査区土壌161実測図 (1/60)

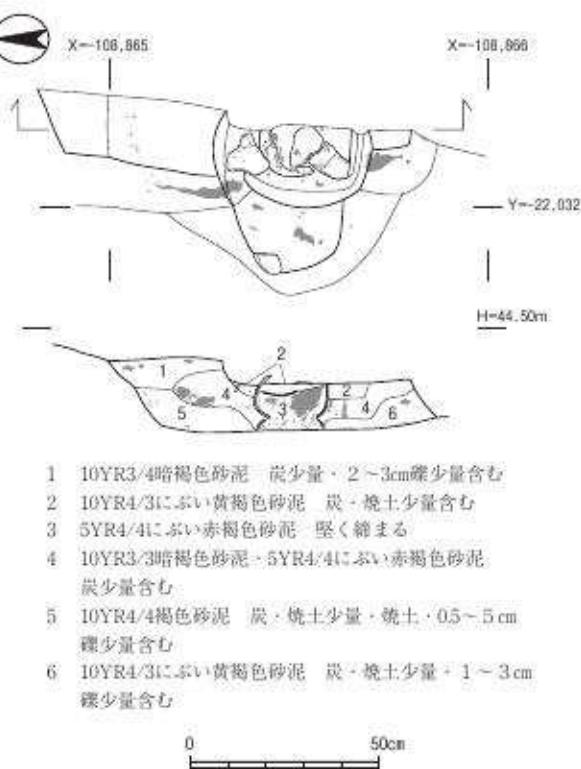


図19 A調査区土壌177実測図 (1/20)

は約1.8m、深さ0.7mである。平安時代後期の土師器、輸入陶磁器などが多量に出土した。

方形土壌161は東西0.9m、南北2.9m、深さ0.4mである。平安時代末期の土師器、輸入陶磁器などが出土した。

#### 第4面（弥生時代から平安時代前期）

検出遺構は平安時代前期の土壌、古墳時代の土壌、弥生土器包含層などがある。

土壌178は調査区中央のX=-108,868m付近で検出した。一辺が1.2m以上で平面形は北と西側は搅乱で不明である。深さは0.1m程で浅く、埋土は10YR3/4砂泥でⅠ期新～Ⅱ期古の平安時代前期の土器が少量出土した。

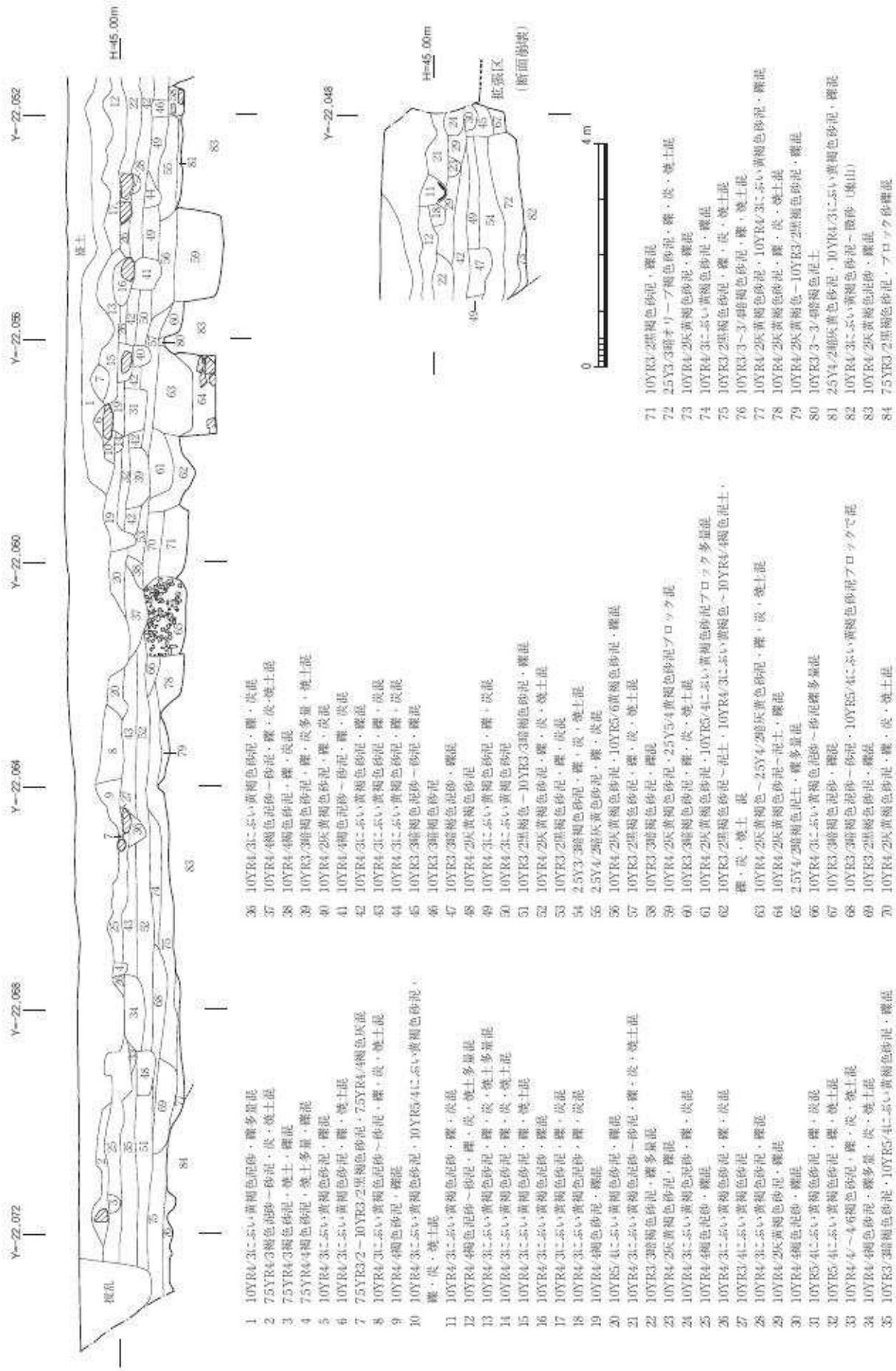
土壌177は東壁際で両端が赤く焼け堅く縮まった土層の中央に古墳時代の土師器甕が据えられていた。形状から住居の竈と考えられる。

弥生時代の包含層は調査区中央のX=-108,868付近で検出した。高坏・器台・甕片が少量出土した。

#### (2) B調査区

B調査区は室町通側で東西方向である。現表土は東が45.9m、西が45.7mでやや西へ傾斜している。地山（自然堆積層）は10YR4/2灰黄褐色泥砂（83層）・7.5YR3/2黒褐色砂礫（84層）で同様に西へ傾斜している。

調査は49～53層の江戸時代前期の第1面から開始し、第2面は58・70・72・75層で室町時代から桃山時代。第3面は80・81層と82～84層（地山）で古墳時代～平安時代である。



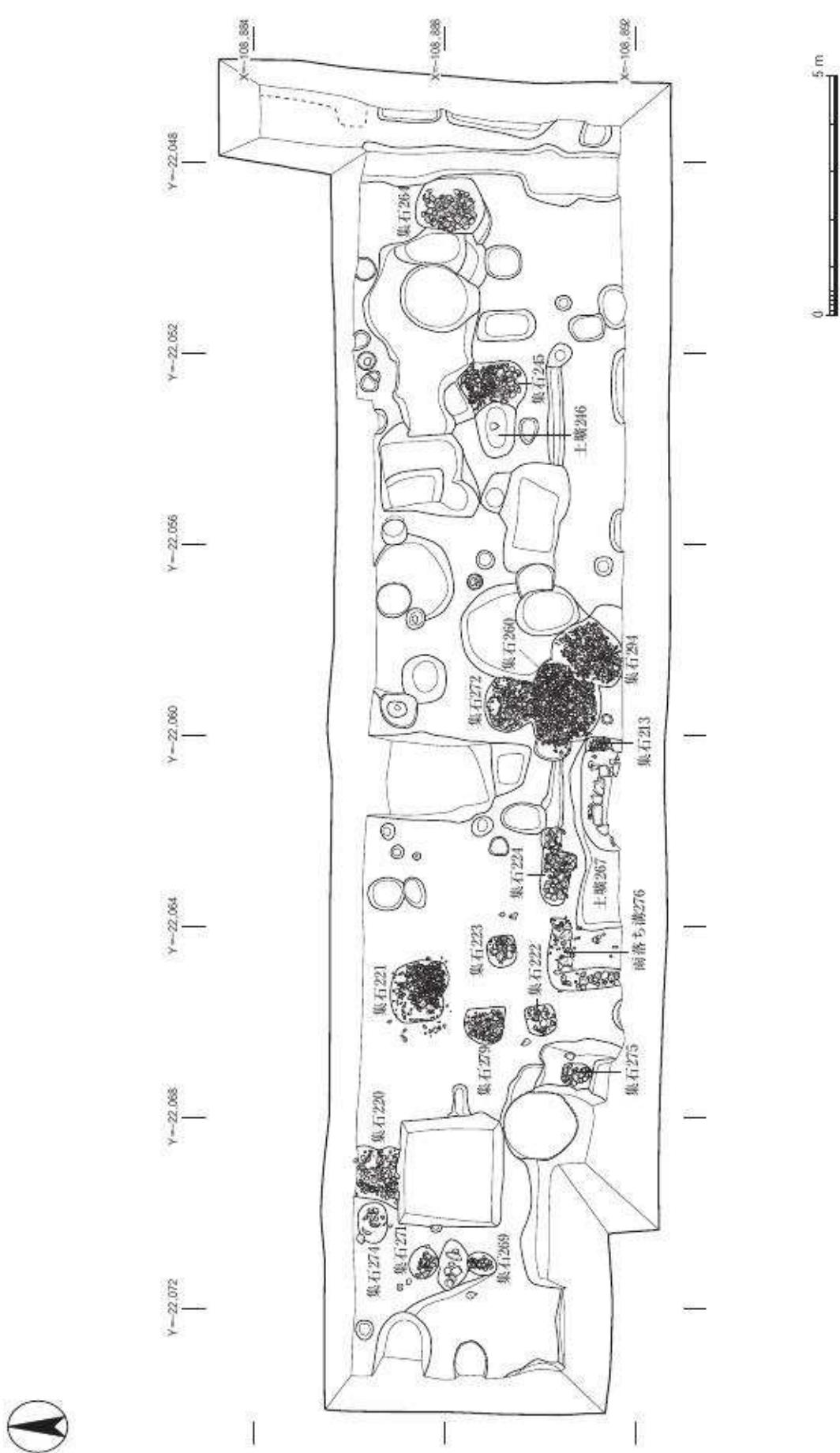


图21 B调查区第1面平面实测图 (1/125)

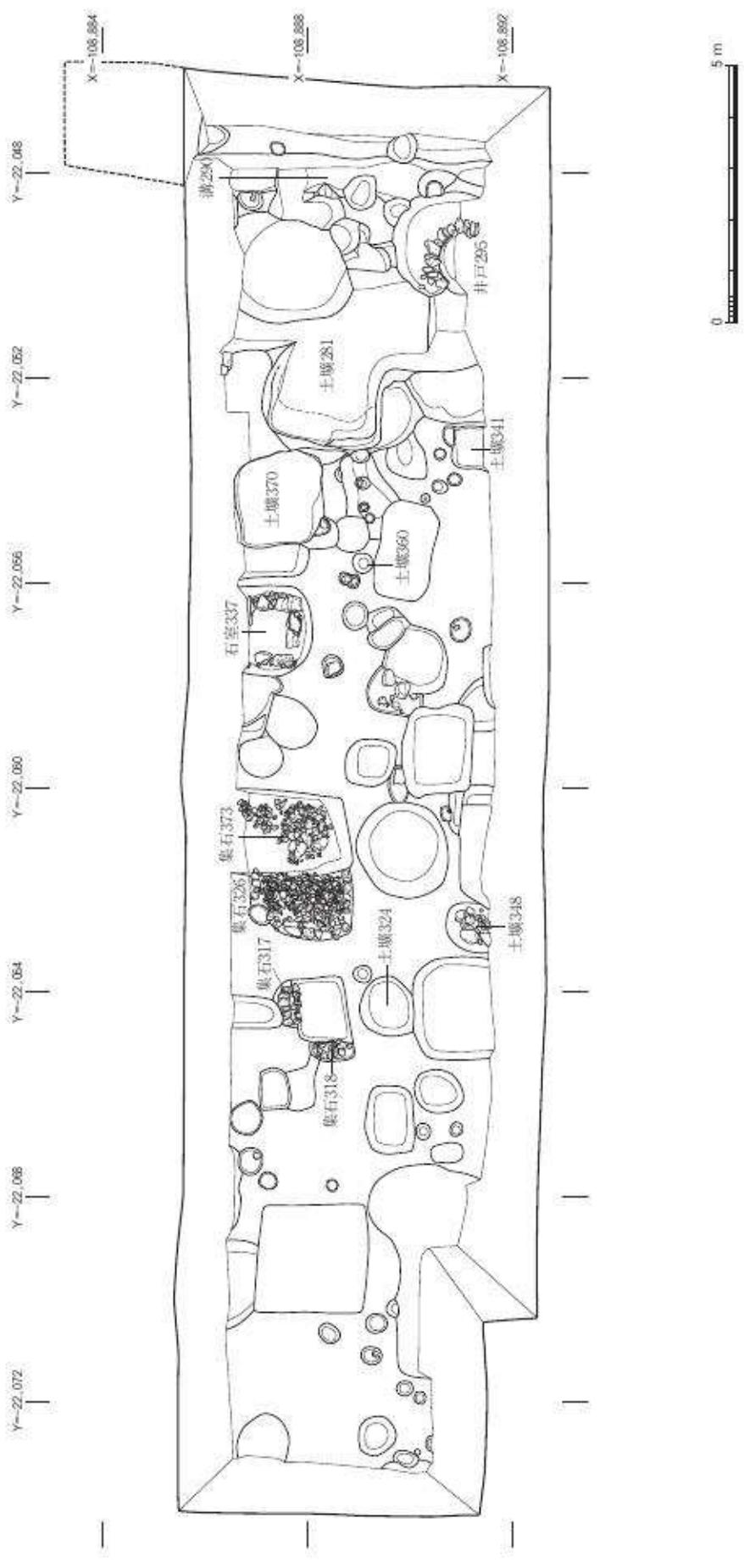


図22 B調査区第2面平面実測図 (1/125)

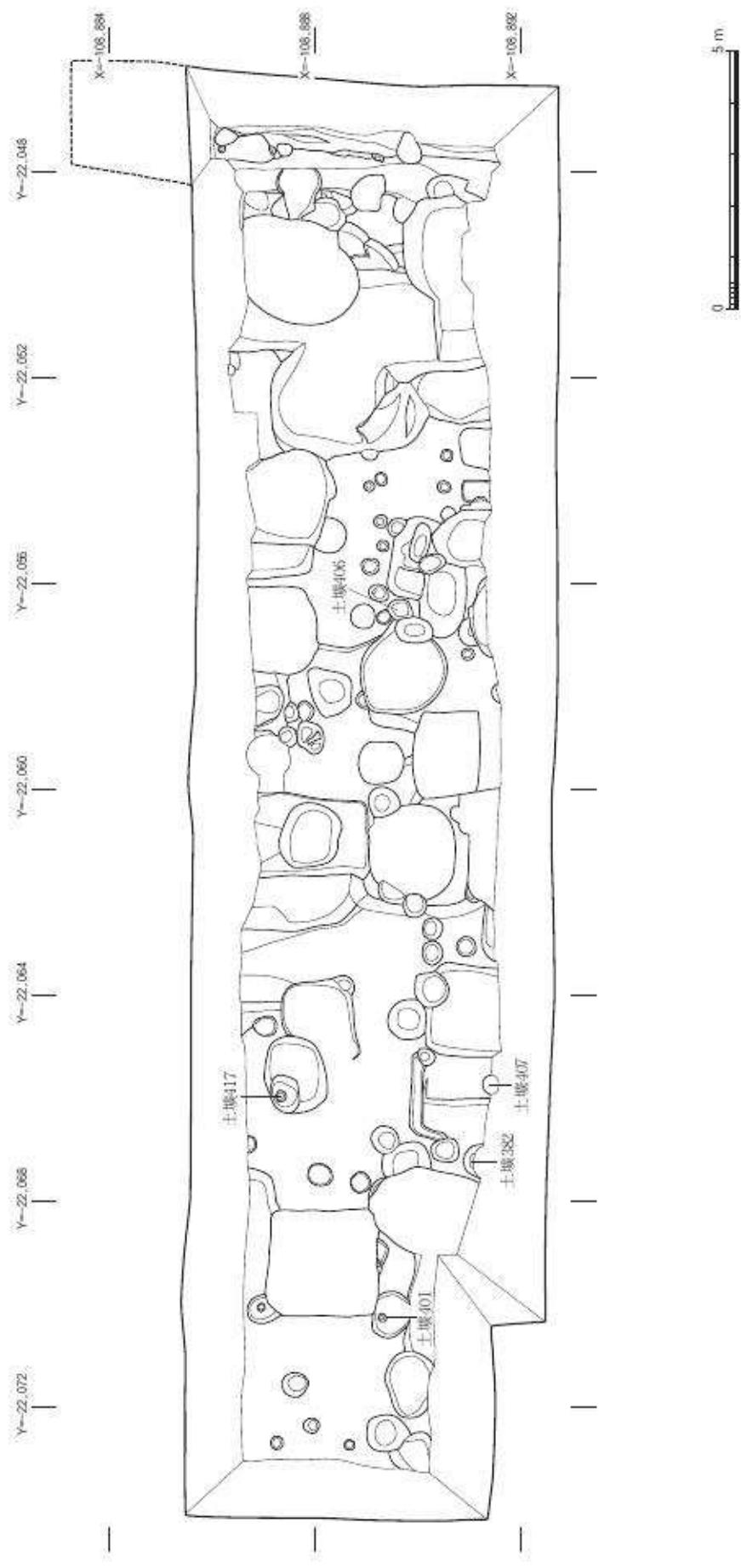


图23 B调查区第3面平面实测图 (1/125)

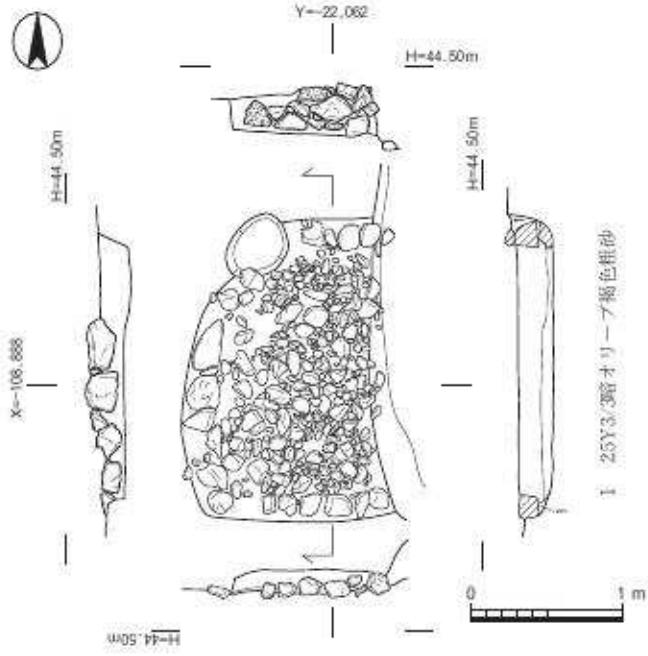


図24 B調査区集石326実測図 (1/50)

#### 江戸時代前期の遺構（第1面）

遺構は集石、雨落ち溝、土壙、溝、ピットなどがある。集石は213・220・224・245・260・264・269・271・272・274・275・279・294、雨落ち溝は276でこれらの遺構は雨水や宅地内の生活排水などの施設と考えられる。この他に土壙246・267がある。

#### 室町時代から桃山時代の遺構（第2面）

遺構は溝、集石、井戸、土壙、石室ピットなどがある。

桃山時代の遺構は溝290で調査区の東端で検出した南北方向の溝である。

検出長は5.1m、幅は0.8m、深さ0.6mで北と南側へ延びている。A調査区の濠8に関連する遺構の可能性がある。土壙281・324・370がある。室町時代は集石は317・318・326・373、井戸295、土壙324・341・348、石室337は調査区中央の北壁際で検出した。東西1.6m、南北1.3以上、深さは1.0mで方形である。石組は4面で1～3段残存していた。

#### 古墳時代から平安時代前期の遺構（第3面）

遺構は土壙、ピットなどがある。

平安時代後期の遺構は土壙382・406・417である。平安時代前期の遺構は土壙401で須恵器の円面鏡が出土した。古墳時代の遺構は調査区南西で検出した土壙407である。直径0.4m、深さは0.3mで壺が一個体出土した。

図25 B調査区石室337実測図 (1/50)

### III 遺 物

出土遺物は、整理箱にして143箱である。その内訳は陶磁器類が大半を占める。時代は江戸時代前期が最も多く、次に平安時代後期、室町時代、鎌倉時代となる。古墳時代と弥生時代のものも少量出土した。なお、時代区分は京都の土器編年をもとにした。

#### (1) A調査区土器・陶磁器類

##### 石組遺構27出土土器 (図版8・9、図26・27)

土師器皿Nr(1・2)・同皿Sb(3~5)・同皿S(6~17)・同つぼつぼ(18~21)・同塙壺蓋(22)・同身(23・24)・同羽釜(25)。輸入磁器染付杯(26)。国産陶磁器類の肥前染付形碗(27)、瀬戸折縁皿(28)、志野織部皿(29)、織部平向付(30)、唐津皿(31~33)、瀬戸美濃小碗(34~38)、唐津小碗(39)、瀬戸美濃碗(40~41)、織部碗(43)、美濃天目茶碗(44~52)、唐津呂器手形碗(53)、同茶碗(54・55)、同半筒茶碗(56)、瀬戸沓茶碗(57)、高取沓茶碗(58)、美濃鉄釉蓋(59)、丹波小壺(60)。焼締陶器類の丹波壺(61)・同向付(62)・同建水(63)・同擂鉢(64・67)・同盤(70)、備前擂鉢(65)、東海系擂鉢(66)、唐津擂鉢(68)、信楽擂鉢(69)が出土。XI期中~新の江戸時代前期である。

##### 濠8出土土器 (図版9、図28)

土師器皿Nr(71)・同皿Sb(72~76)・同皿S(77~81)・同塙壺蓋(82)・同身(83)。輸入磁器染付碗(84)。国産陶器の織部香合(85)、志野鉢(86)、唐津皿(87)、志野鉢(88)が出土。XI期中の江戸時代前期である。

表2 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
江戸時代	土師器、国産陶磁器、輸入陶磁器、焼締陶器、瓦質陶器、軒瓦、瓦、硯、石製品、錢貨		土師器44点、国産陶磁器39点、輸入磁器2点、焼締陶器10点、硯3点、石造物2点、軒瓦4点		
室町時代～ 桃山時代	土師器、輸入陶磁器、国産陶磁器、焼締陶器、瓦器、軒瓦、瓦、錢貨、石製品		土師器73点、国産陶磁器10点、輸入陶磁器7点、焼締陶器7点、瓦器4点、軒瓦4点、錢貨6点、石造物1点		
鎌倉時代～ 平安時代	土師器、輸入陶磁器、焼締陶器、瓦器、灰釉陶器、須恵器、軒瓦、瓦、錢貨		土師器57点、輸入磁器5点、瓦器7点、灰釉陶器1点、須恵器2点、軒瓦6点		
古墳時代	土師器、須恵器		土師器3点		
弥生時代	弥生土器		弥生土器1点		
合 計		175箱	298点(29箱)	143箱	0箱

\* コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より29箱多くなった。

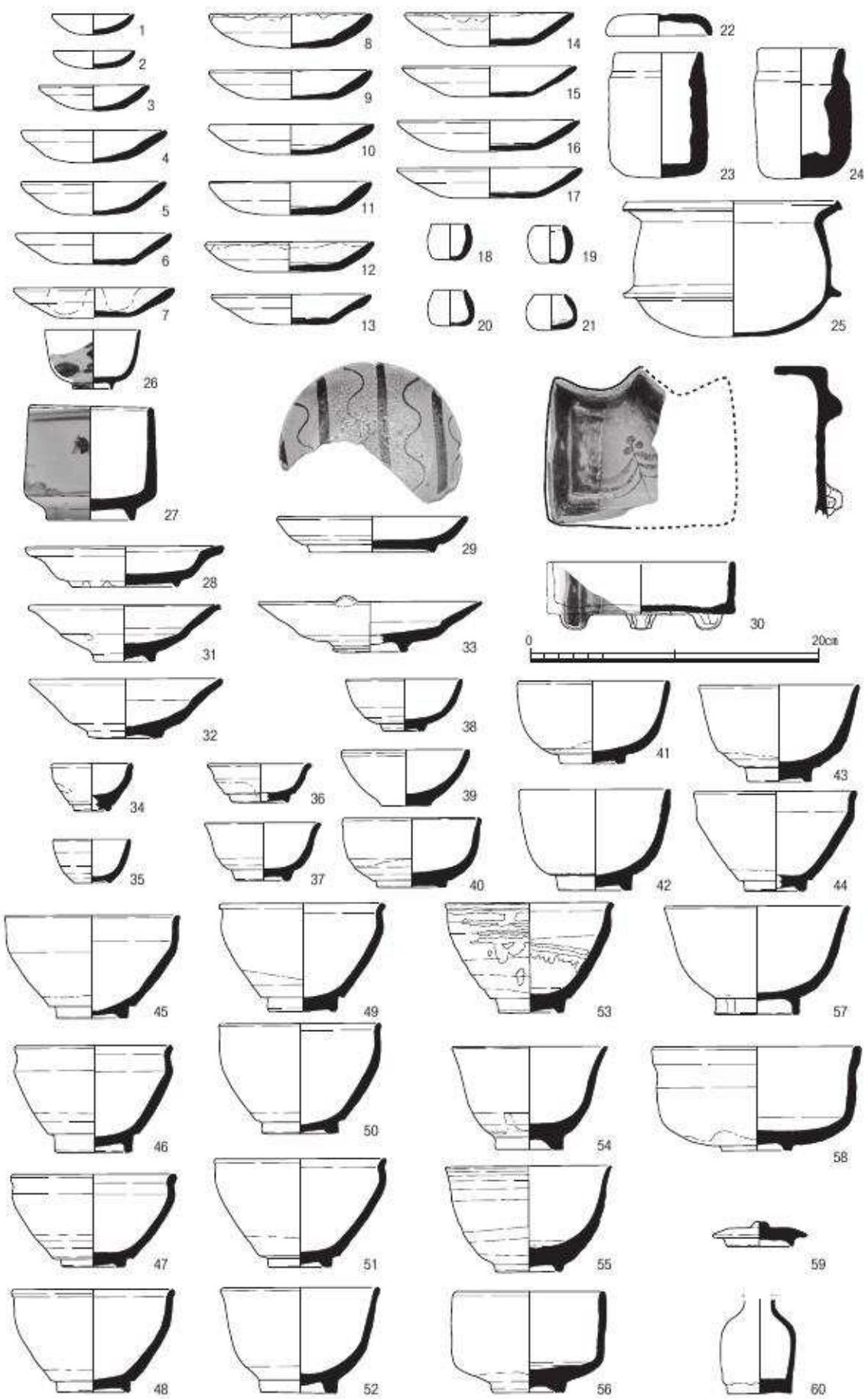


図26 石組遺構27出土土器実測図1 (1/4)

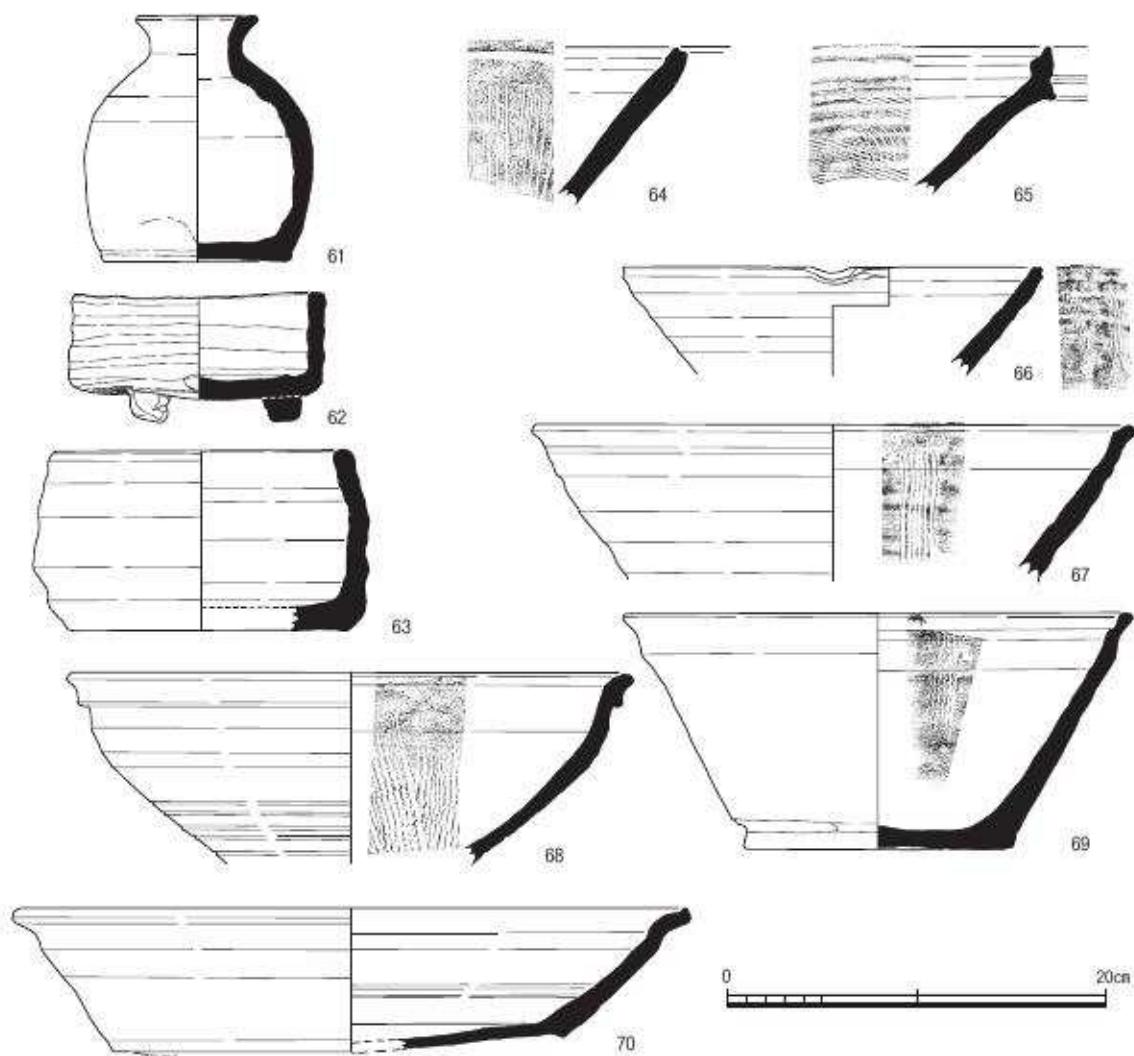


図27 石組遺構27出土土器実測図 2 (1/4)

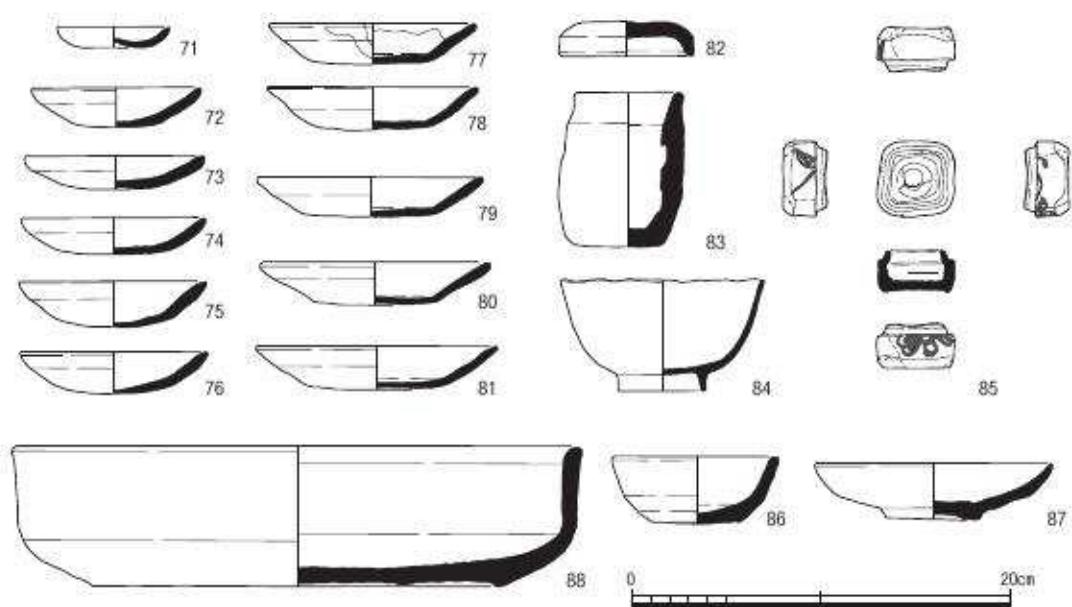


図28 濠8出土土器実測図 (1/4)

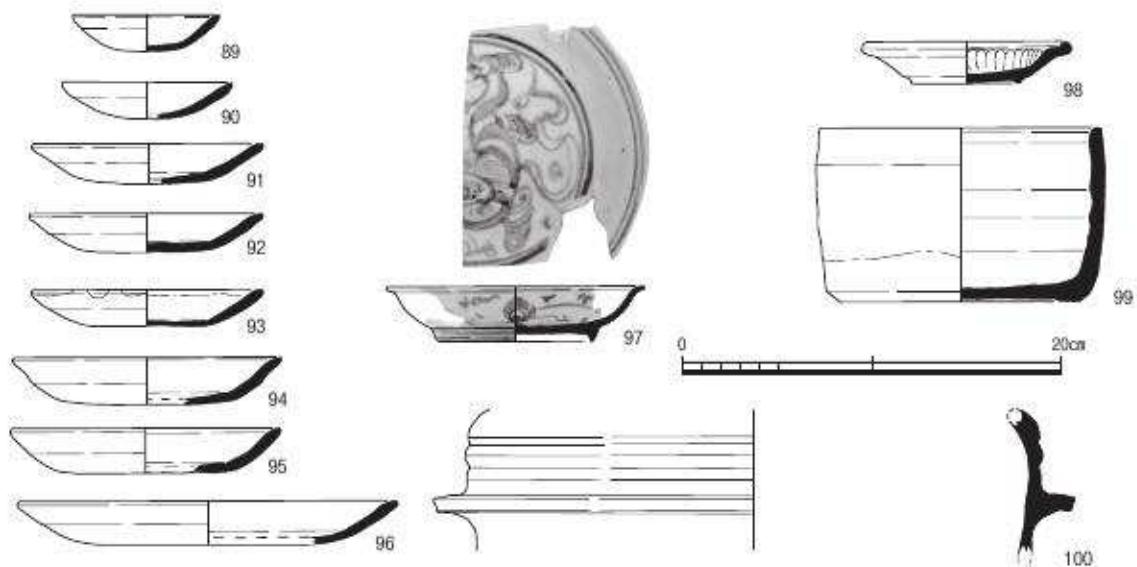


図29 濠78A出土土器実測図（1/4）

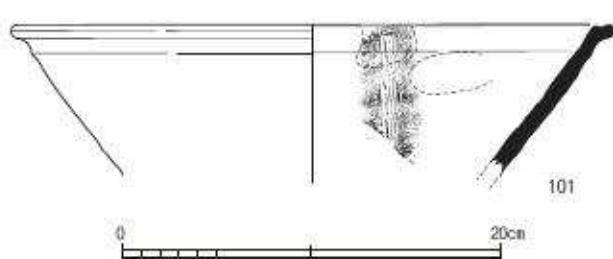


図30 井戸101出土土器実測図（1/4）

#### 濠78A出土土器（図29）

土師器皿Sb（89・90）・同皿S（91～96）、輸入磁器染付（97）、国産陶器の黄瀬戸折縁皿（98）、瀬戸美濃鉄釉建水（99）、瓦器羽釜（100）が出土。XI期古の桃山時代である。

#### 井戸101（図30）

国産焼締陶器信楽播鉢（101）が出土。

#### 溝38出土土器（図版9、図31）

土師器皿Nr（102～109）・同皿Sb（110～114）・同皿S（115～124）・同台付き皿（125）・同焰烙（126）、国産陶器の美濃天目茶碗（127）、焼締陶器には東海系播鉢（128）、信楽播鉢（129・130）。瓦器鉢（131）が出土。X期新の室町時代末期である。

#### 土壌75出土土器（図版10、図32）

土師器皿Ac（132）・同皿N（133～138）・同皿Sh（139・140）・同皿Sb（141～143）・同皿S（144～152）、焼締陶器の備前播鉢（153）が出土。X期古の室町時代後半である。

#### 土壌107出土土器（図版10、図33）

土師器皿Ac（154）・同皿N（155～162）・同皿S（163～170）・同鉢（171）、瓦器皿（172）・同碗（173）・同羽釜（174）・同盤（175）、須恵器鉢（176）が出土。VII期古の鎌倉時代後半である。

#### 溝116出土土器（図版10、図34）

土師器皿A（177～181）・同皿Ac（182～184）・同皿N（185～196）・同杯（197～205）。白色土器皿（206）、灰釉陶器皿（207）、輸入磁器白磁蓋（208）・同皿（209・210）・同碗（211）、瓦器鉢（212）・同火鉢（213）が出土。IV期新～V期古の平安時代後期である。

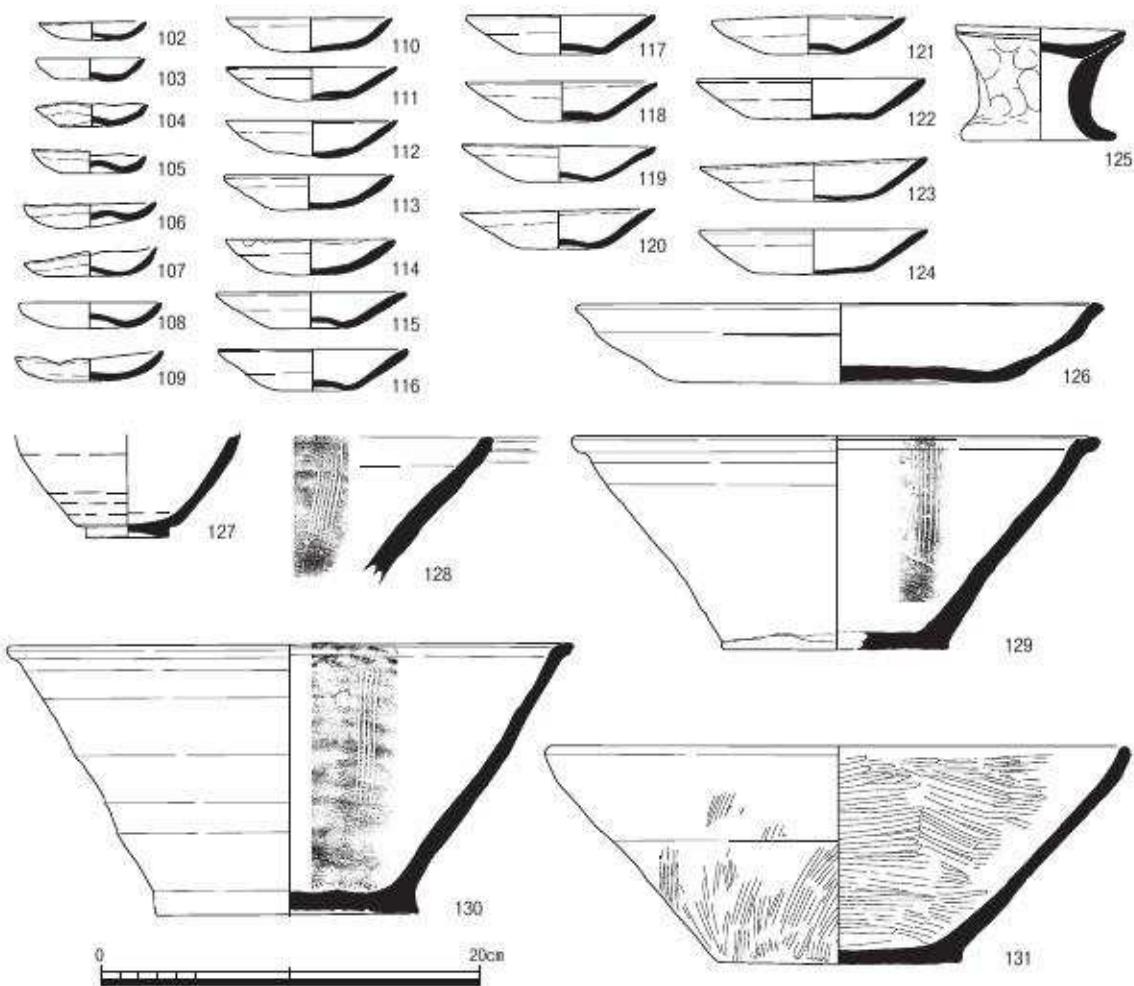


図31 溝38出土土器実測図（1/4）

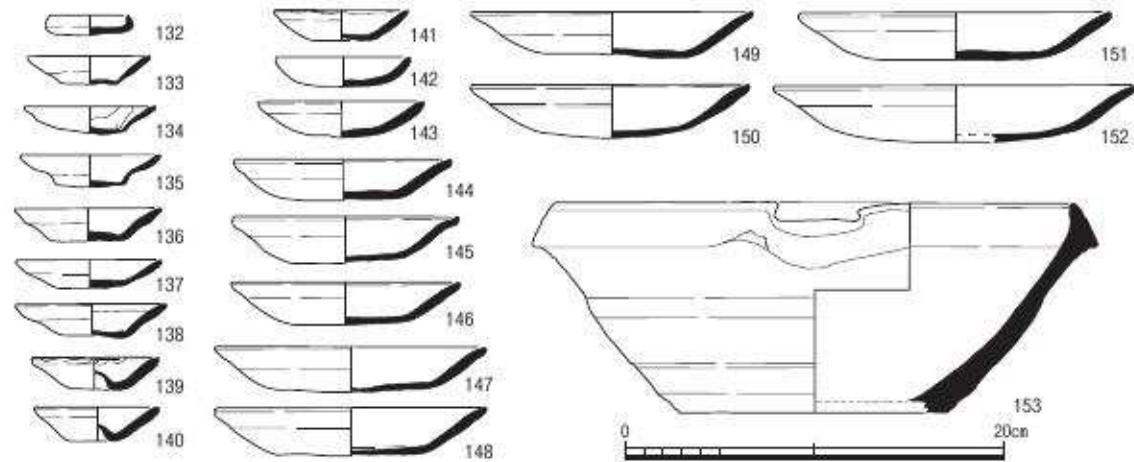


図32 土壙75出土土器実測図（1/4）

#### 土壙161出土土器（図版10、図35）

土師器皿N（214～216）、同皿S（217）、白色土器高坏（218）、輸入磁器白磁碗（219）が出土。

V期古の平安時代後期～末期である。

#### 土壙178出土土器（図版10、図36）

須恵器坏（220）が出土。II期古の平安時代前期である。

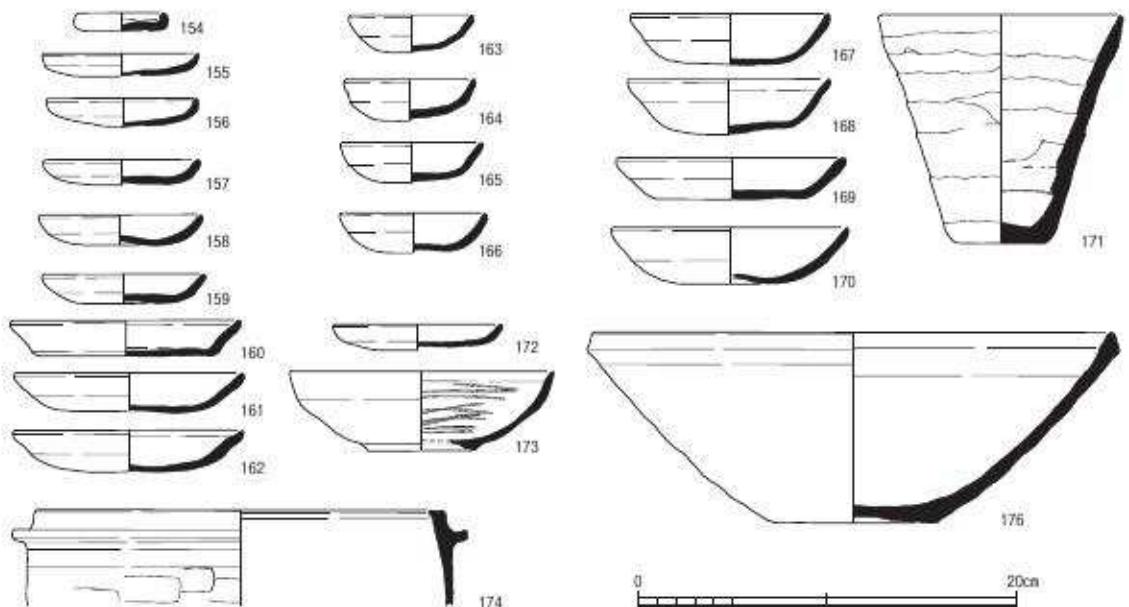


図33 土壌107出土土器実測図 (1/4)

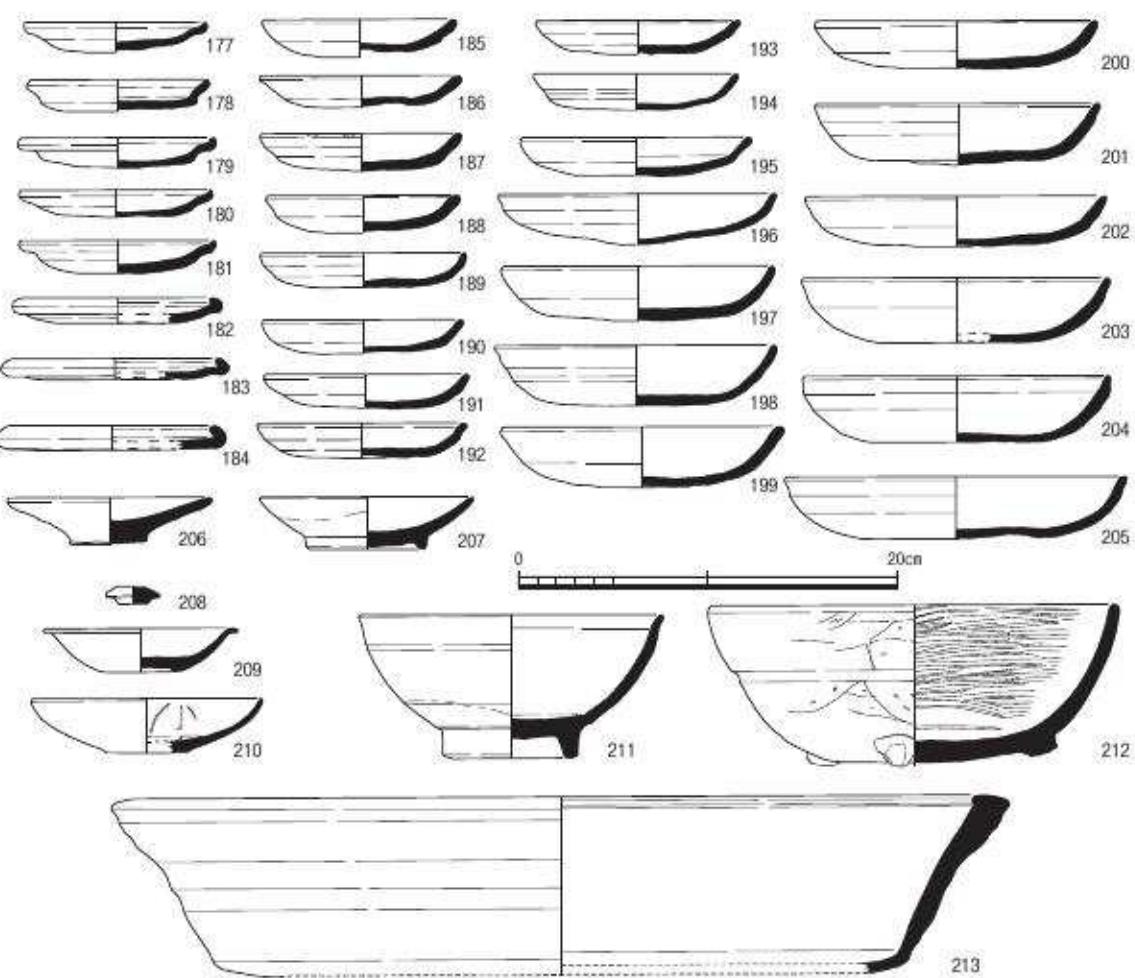


図34 溝116出土土器実測図 (1/4)

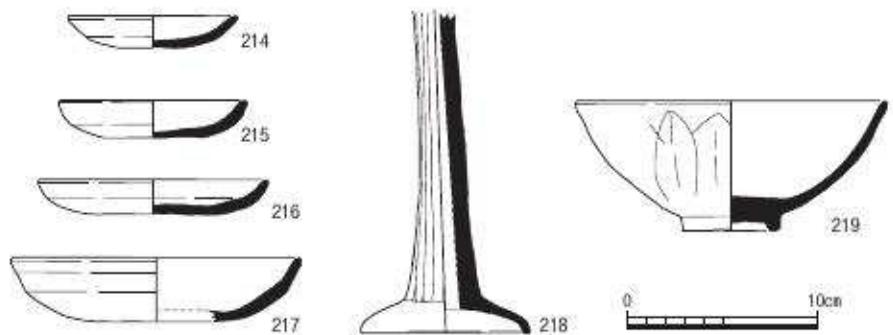


図35 土壙161出土土器実測図 (1/4)

#### 土壤177出土土器 (図37)

土師器甕 (221・222) が出土。古墳時代前期である。

#### 弥生土器包含層出土土器 (図37)

弥生土器器台 (223) が出土。弥生時代後期である。

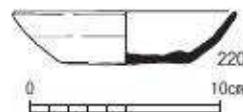


図36 土壙178出土土器  
実測図 (1/4)

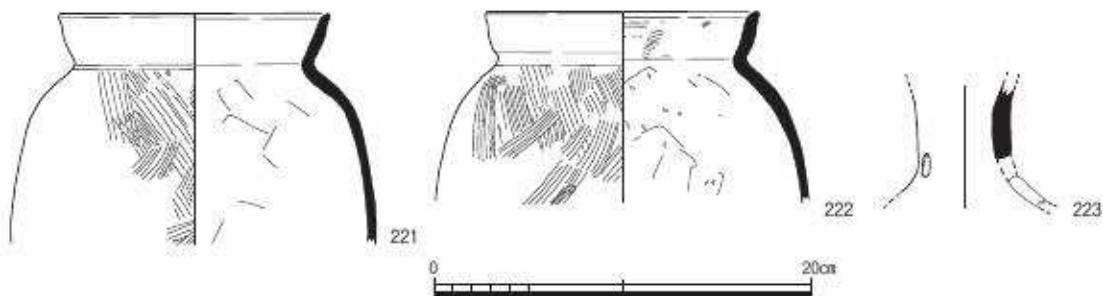


図37 土壙177・弥生包含層出土土器実測図 (1/4)

## (2) B 調査区土器・陶磁器類

#### 土壤246出土土器 (図38)

土師器皿Sb (224)・同皿S (225・226)・同塩壺身 (227) が出土。XI期中の江戸時代前期である。

#### 土壤267出土土器 (図38)

土師器皿Nr (228)・同皿S (229)、国産陶器黄瀬戸建水 (230) が出土。XI期中の江戸時代前期である。

#### 土壤281出土土器 (図版10、図39)

土師器皿Sb (231・232)・同皿S (233~238)・同塩壺身 (239)・同犬人形 (240)、瓦器おはじき (241)、輸入陶磁器褐釉多角形皿 (242)・白磁皿輪花皿 (243)・輸入施釉陶器平茶碗 (244) でいわゆる「斗々屋」茶碗である。国産陶器の染付蓋 (245) 濑戸灰釉皿 (246)・同褐釉皿 (247)、美濃天目茶碗 (248)、志

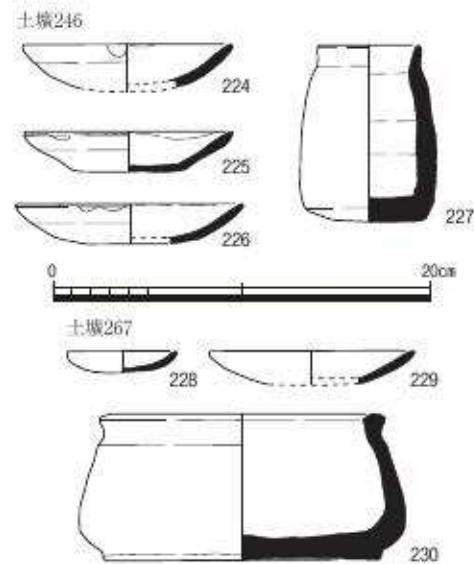


図38 土壙246・267出土土器実測図 (1/4)

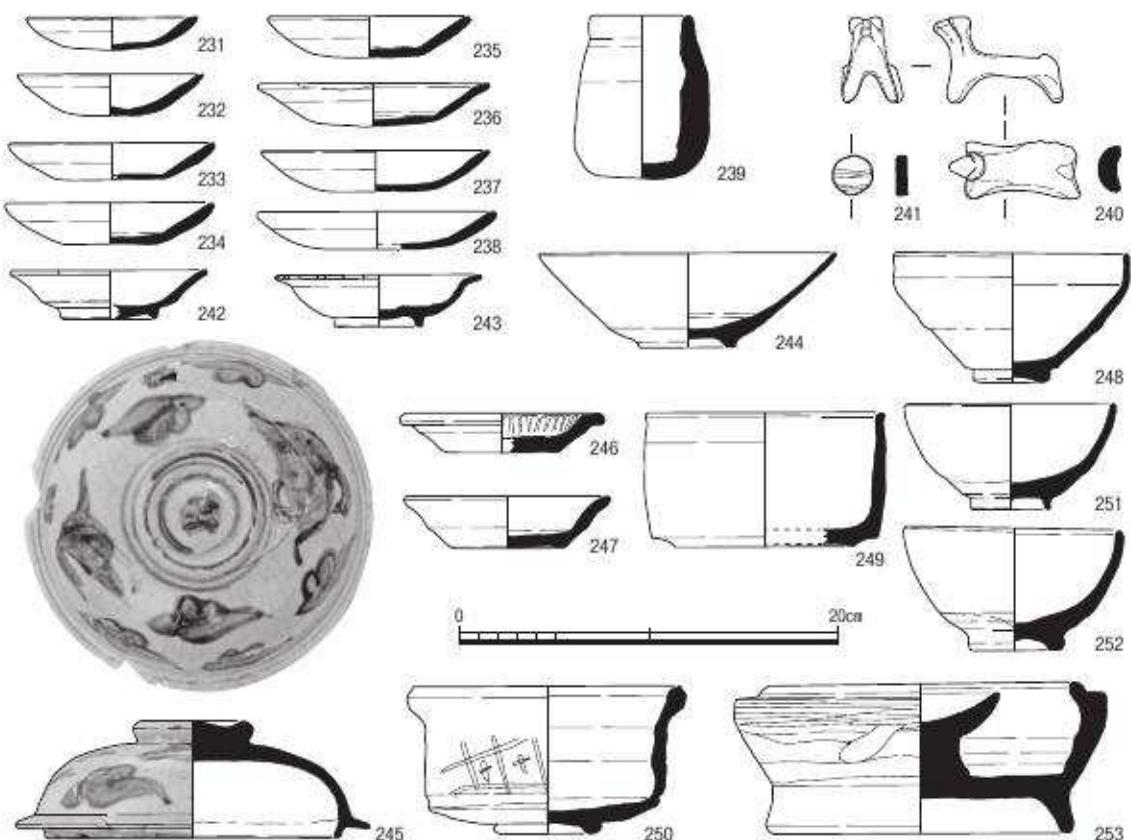


図39 土壌281出土土器実測図 (1/4)

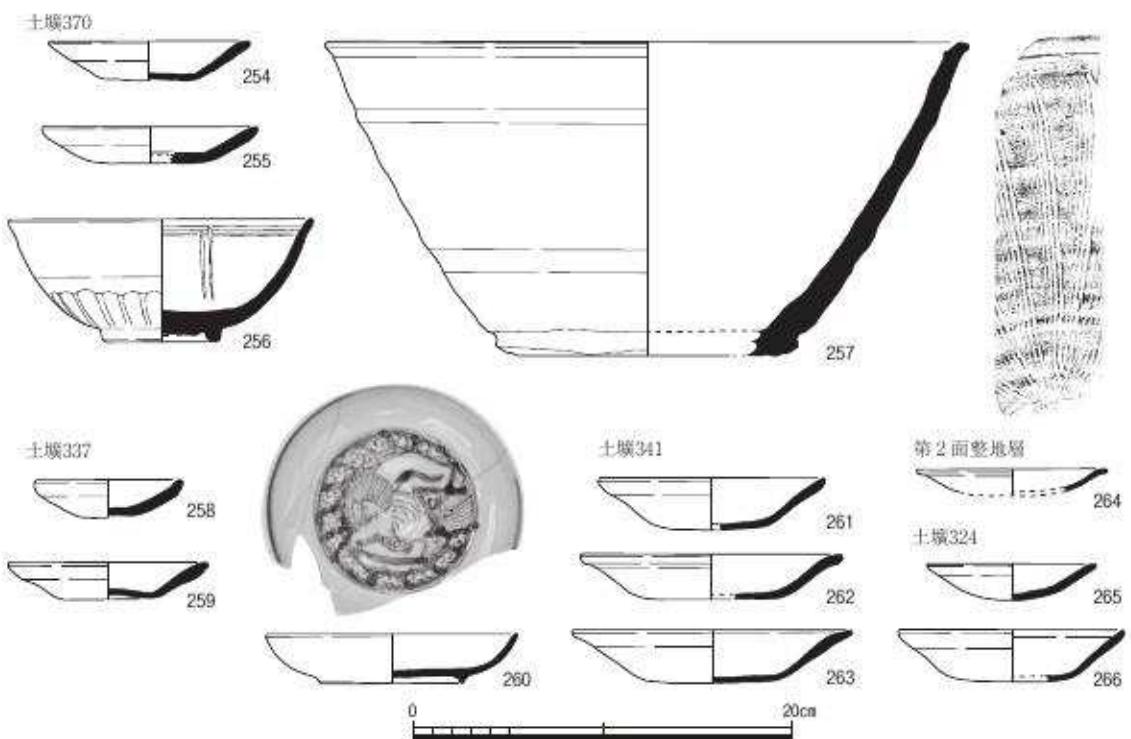


図40 土壌370・337・341・2面整地層・土壌324出土土器実測図 (1/4)

野筒茶碗 (249)、美濃黒織部沓茶碗 (250)、唐津椀 (251・252)、瓦器瓦灯 (253) が出土。XI期古～中期の桃山時代から江戸時代前期である。

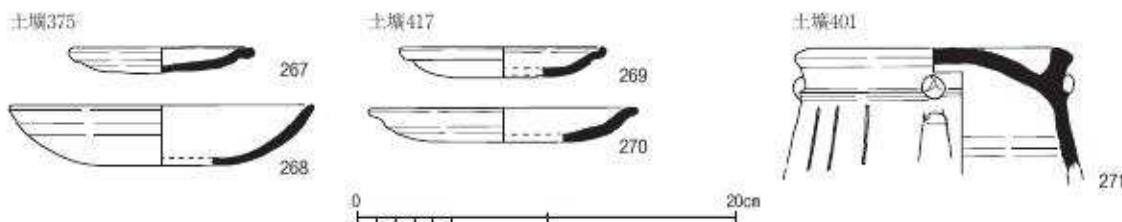


図41 土壌375・417・401出土土器実測図 (1/4)

#### 土壌370出土土器 (図40)

土師器皿S (254・255)、輸入磁器青磁碗 (256)、焼締陶器丹波播鉢 (257) が出土。X期新～XI期の室町時代末から桃山時代である。

#### 土壌337出土土器 (図40)

土師器皿Sb (258)・同皿S (259)、輸入磁器染付皿 (260) が出土。X期新の室町時代末期である。

#### 土壌341出土土器 (図40)

土師器皿S (261～263) が出土。X期古の室町時代後期である。

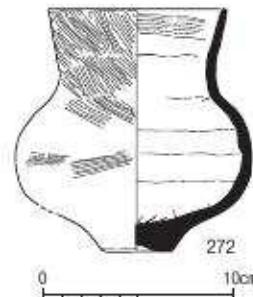


図42 土壌407出土土器  
実測図 (1/4)

#### 第2面整地層出土土器 (図版11、図40)

輸入磁器皿 (264) が出土。

#### 土壌324出土土器 (図40)

土師器皿S (265・266) が出土。IX期新の室町時代後期である。

#### 土壌375出土土器 (図41)

土師器皿A (267)・同皿N (268) が出土。IV期新からV期古の平安時代後期から末期である。

#### 土壌417出土土器 (図41)

土師器皿A (269)・同皿N (270) が出土。IV新の平安時代後期である。

#### 土壌401出土土器 (図版11、図41)

須恵器円面硯 (271) が出土。平安時代前期である。

#### 土壌407出土土器 (図42)

土師器壺 (272) の庄内式土器が出土。古墳時代初期である。

### (3) 瓦類

#### 軒丸瓦 (図版11、図43)

瓦1は藤文二巴瓦でA調査区石組遺構27出土。瓦2は金箔16弁菊花文瓦でB調査区第1面整地層出土。瓦3・4は三巴文瓦でA調査区石組遺構27出土。瓦5は三巴文瓦でA調査区濠8出土。瓦6は三巴文瓦で濠78A出土。瓦7・8は単弁蓮華文瓦でA調査区溝116出土。

#### 軒平瓦 (図版11、図44)

瓦9は均整唐草文瓦でA調査区石組遺構27出土。瓦10は均整唐草文瓦でA調査区濠8出土。瓦11は均整唐草文瓦でB調査区集石220出土。瓦12は均整唐草文瓦で右下に「西」刻印がある。B

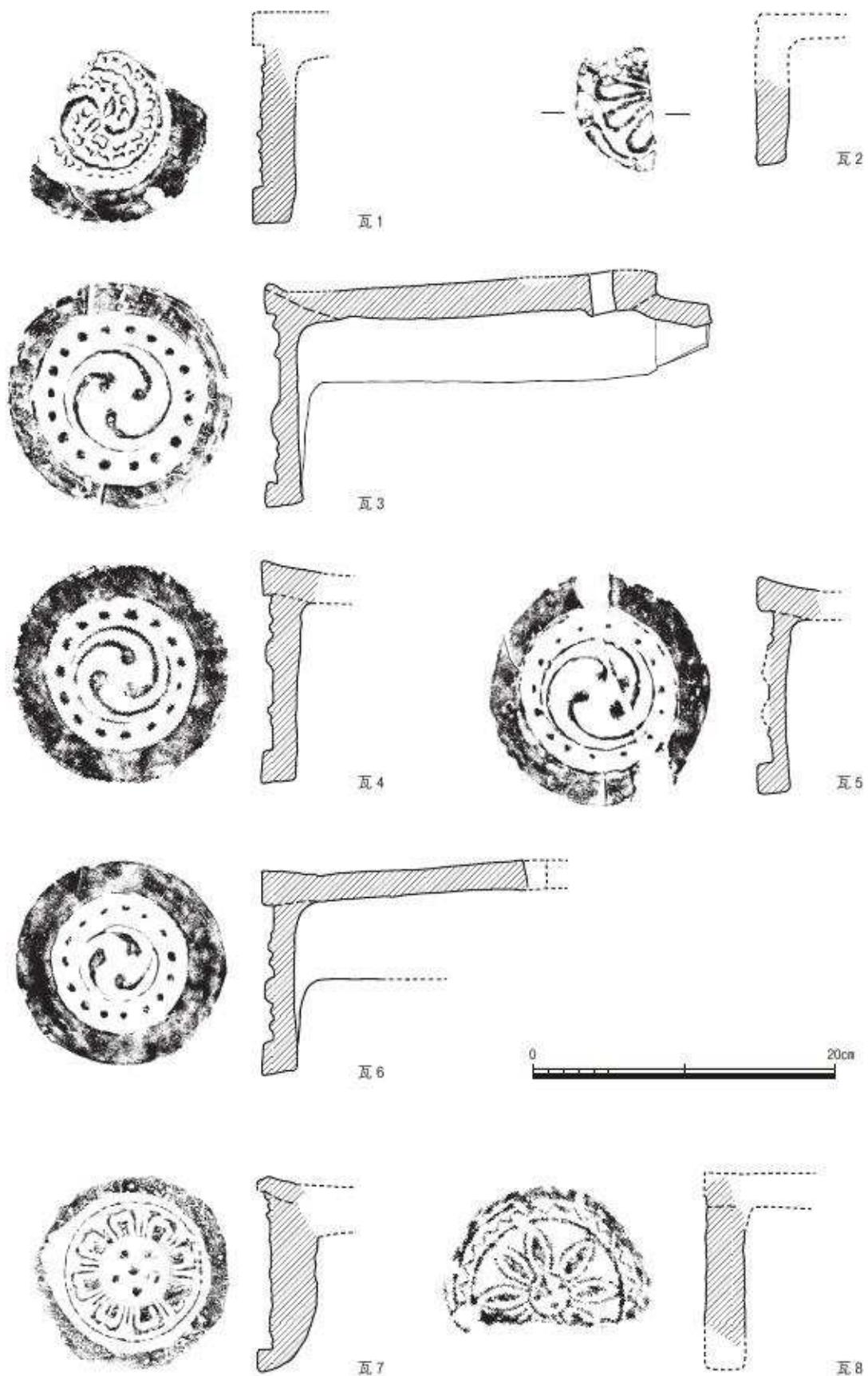


図43 軒丸瓦拓影・実測図 (1/4)

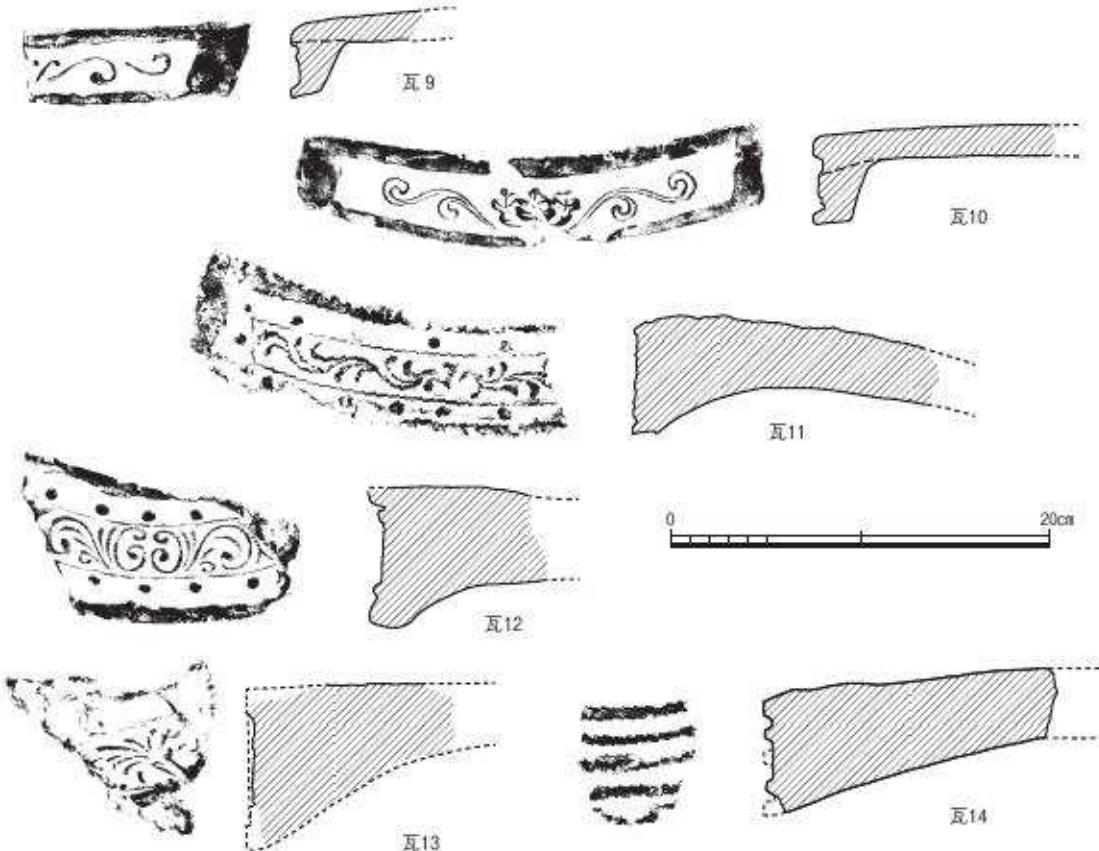


図44 軒平瓦拓影・実測図（1/4）

調査区第2面掘下げ出土。瓦13は

唐草文瓦で集石222出土。瓦14は  
重弧文瓦でB調査区145出土。

#### (4) その他の遺物

##### 錢 貨 (図45)

錢1は「嘉祐元寶」、錢2は  
「景德元寶」でA調査区石組遺構  
27出土。錢3は「元祐通寶」でA  
調査区溝38出土。錢4は「宣和通  
寶」、錢5は「紹聖元寶」でB調査区第2面掘下げ出土。錢6は「開元通寶」でB調査区井戸295  
出土。

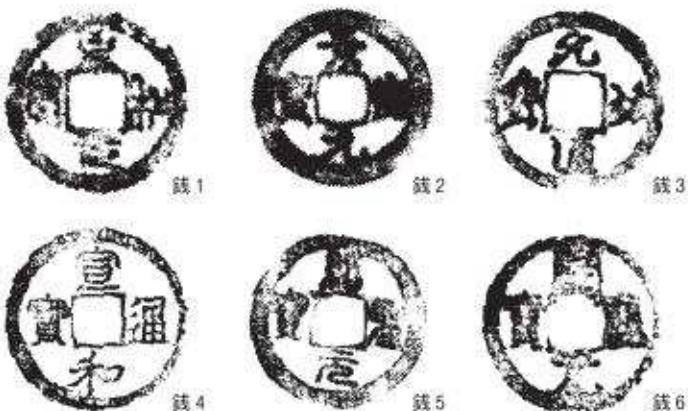
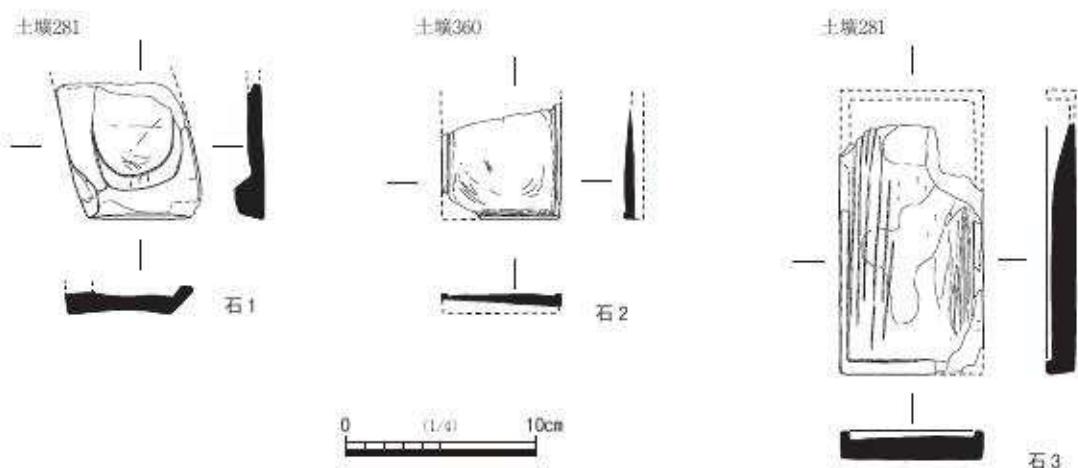


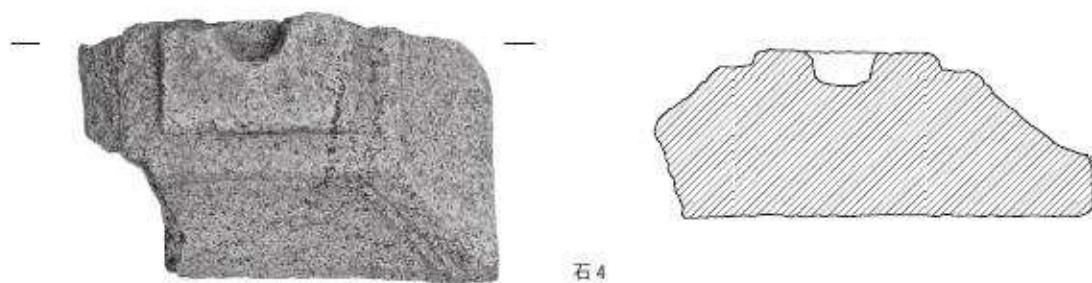
図45 錢貨拓影（1/4）

##### 石製品・石造物 (図版11、図46)

石1・3は硯でB調査区土壤281出土。石2の硯はB調査区360出土。石4は石塔傘でA調査区  
石組遺構27出土。石5は宝筐印塔（相輪）でA調査区石組遺構27出土。石6は石仏（阿弥陀如  
来）でA調査区井戸101出土。



石組遺構27



石組遺構27

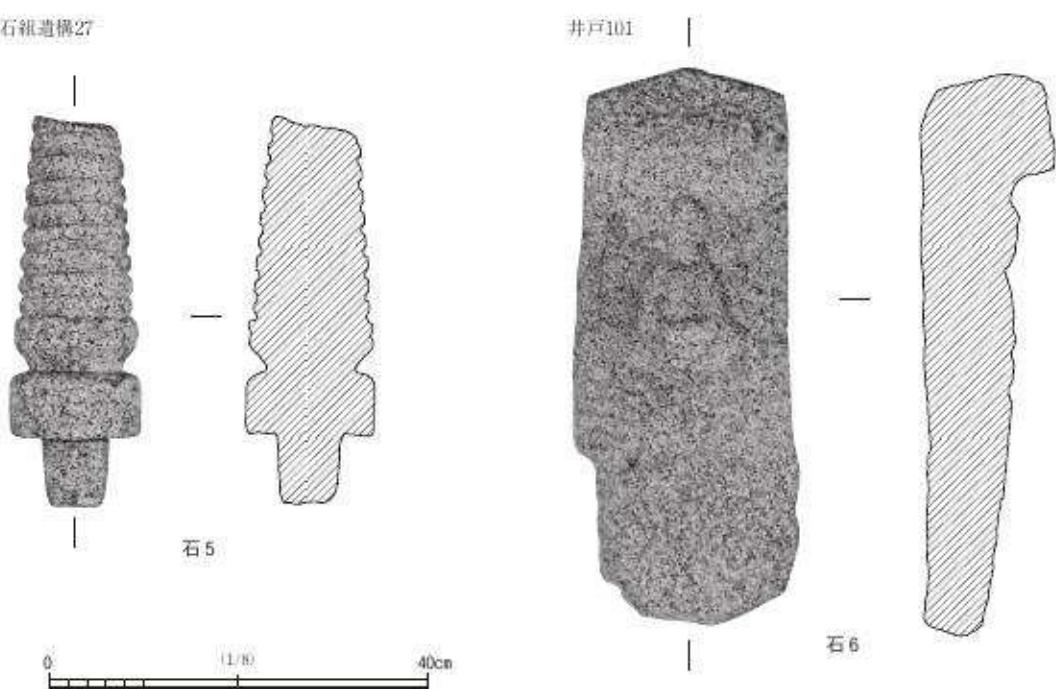


図46 石製品・石造物実測図・写真 (1/4・1/8)

## IV まとめ

今回の調査により得られた特筆すべき成果としては、濠8（図47）を検出したことである。これにより、旧二条城跡の既調査資料を再検討する必要性が生じ、3つの濠を含めた新たな推定復元することが可能となった。

旧二条城の遺構発見は、1974～1977年に実施された京都市高速鉄道烏丸線の発掘調査で、櫛木町交差点付近（図48-①）で（No.15）南面する石垣・犬走り・濠が検出されたのが最初である。（No.15）東南隣（No.24）では南東方向の石垣と犬走り、南側（No.25・54）では北面する石垣、（No.25）含む北側（X-6）では北西方向へ延びる犬走りと障子の濠などが検出された。出水通交差点（図48-②）では（No.52・X-2）東側と西側に石垣伴う濠と濠の間に石組みの暗渠も検出された。下立売通付近（図48-③）では（No.X-1）北面する石垣、犬走りと濠が検出され、丸太町通上る（図48-④）では（No.X-7）北面する石垣と濠が検出された。これらの石垣には石塔、石仏、墓碑など石像物が石材として使われていた。また、濠からも抜取られた石像物が多数出土した。

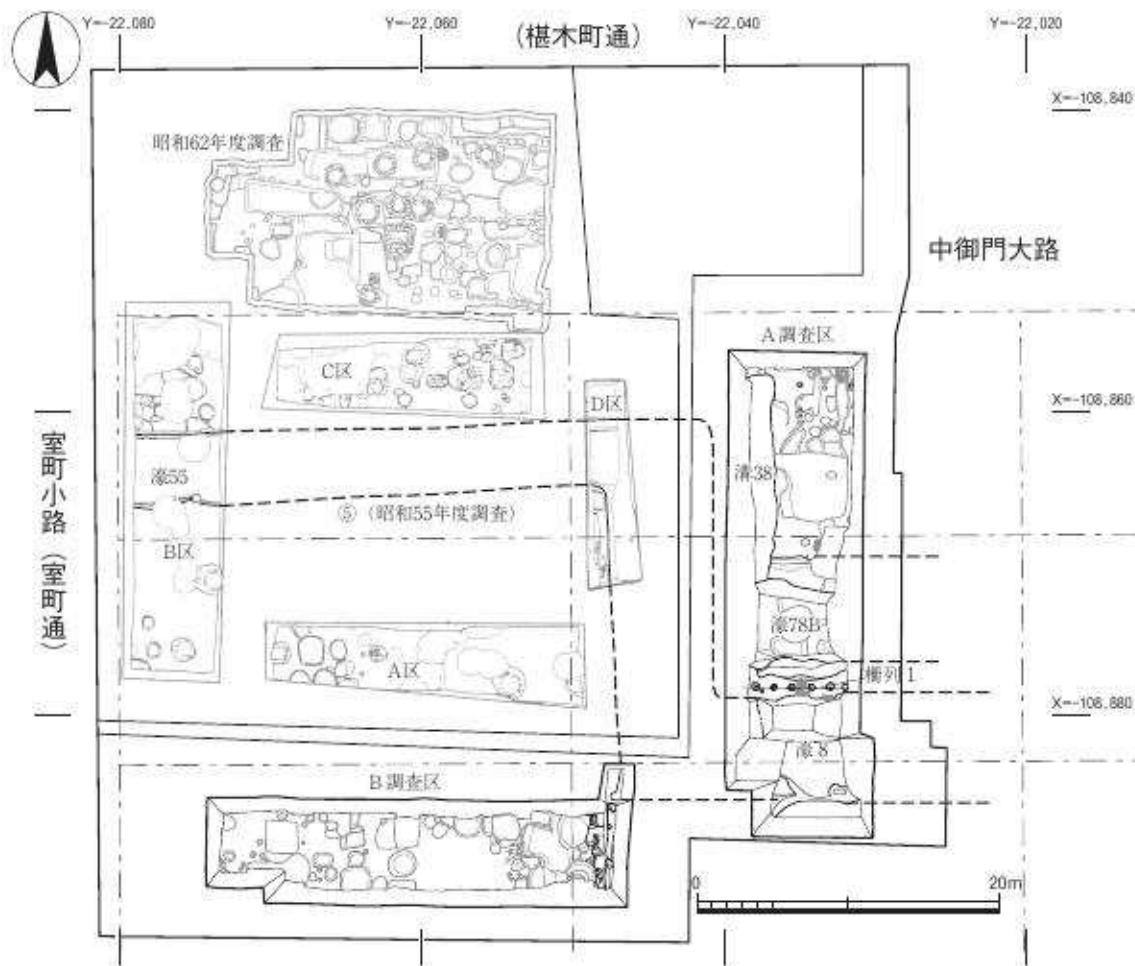


図47 調査地の遺構配置図 (1/500)

室町通樋木町下る（図48-⑤）では東西方向の濠が検出された。石垣はなく、石像物などは出土していない。新町通下立売上る（図48-⑥）では屈曲する南北方向の濠が検出された。石垣は検出されていないが、濠からは石仏、石塔、板碑などが多量に出土した。当時は、埋没時期などから旧二条城の遺構としていなかったが、（図48-⑦）の調査成果から旧二条城の遺構とした。室町通下立売西入る（図48-⑦）では南北方向の大走りを伴う濠が検出された。濠からは石像物などは出土していない。これらの成果から外濠を②（北-烏丸出水通）、④（南-烏丸丸太町上る）、西は新町通、東は東洞院大路で、南北約380mの規模で復元した。外郭の規模は、フロイスの記述に「三街」とあり、平安京の条坊単位である三町分に相当していた。内濠は⑦の成果から図48-①（南-樋木通）、③（北-烏丸下立売通）、⑦（西-室町通西入る）、東は烏丸通から東へ約50m離して、南北約160m、東西約200mで復元された。⑥が旧二条城の遺構とされたことで東の外濠として復元された。

当調査で検出した濠8の位置は①と④の中間地点にあり、石像物なども出土していないことから信長が第15代將軍足利義昭のために築城した「旧二条城」とは別の濠と考えた。これを、天正元年（1573）、義昭が信長に反旗を翻した時に、防御のために新たに掘られた濠と考え、3つの濠を含めた新たな推定復元図を作成した（図48）。

素掘りで石像物が出土していない濠8と共に共通している濠には⑤と⑦がある。⑤の濠55はA調査区（図47）まで伸びていないことが確認されており、濠8が北へ折れて濠55とつながるものと考えられる。そして、濠55は室町通を横断して北へ上がり⑥の濠21につながる。濠21は調査終了時に、確認調査を行った結果、北へ伸びていることが確認されている。この3番目の濠は北、東にあり、南側は外堀と内堀の中間地点に掘られたとして推定した。西側の内濠は第13代將軍足利義輝の「武衛陣御所」を踏襲しているとした。それは、武衛陣御所が「勘解由小路の南、春日の北、室町の東、烏丸の西」（図49）と記述があり、また室町小路は当時、上町と下町と結ぶ主要幹線であることから室町小路の東側とし、北、東、南側は従来の推定とした。

以上、今回の調査成果をもとに推定復元図を作成したが、東側の外濠は東洞院川と考えられるが、しかしながら内濠とも未確認であることなど課題は残されている。

改めて、宣教師ルイス・フロイスが書き残した「書簡」・「日本史」の記述が調査成果と一致していることから文献史料としてきわめて重要であることが確認された。また、武衛陣御所に関連する濠78Aや溝38（図47）も検出されたことから、旧二条城との重複関係が明らかとなり、周辺では、今後とも継続した調査が必要と考えられる。

## 註

- 註1 松田穀一・川崎桃太郎訳『フロイス日本史 五畿内篇II』中央公論社 1981年
- 註2 山科言継『言継卿記』卷1～卷6（続群書類從完成会） 1997・1998年
- 註3 奥野高弘『足利義昭』「人物校叢書」2006年 吉川弘文館
- 註4 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」「研究紀要第3号」（財）京都市

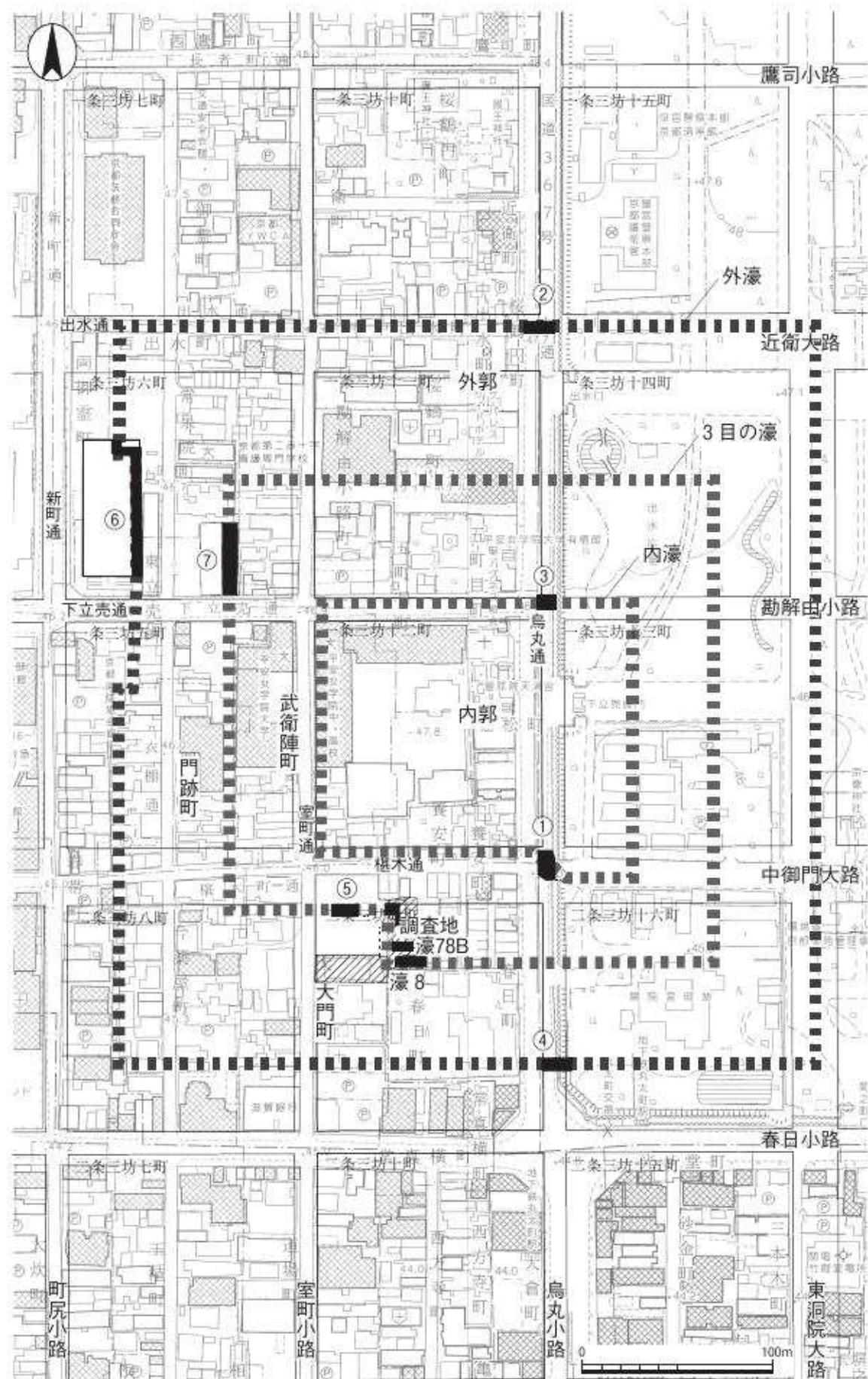


図48 既調査地点と旧二条城推定復元図 (1/3,000)

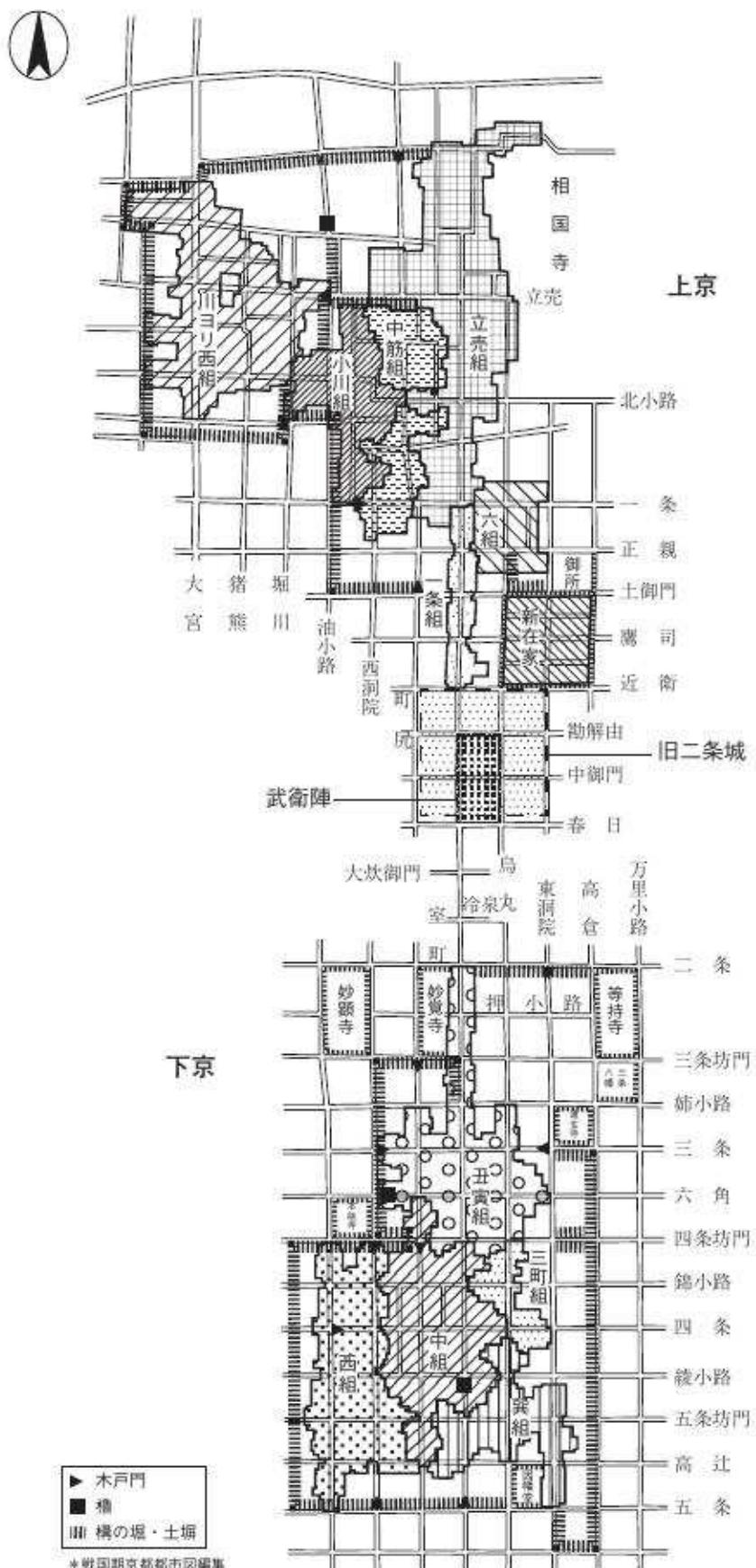


図49 戦国期の京都と武衛陣・旧二条城の位置図

埋蔵文化財研究所 2004年

- 註5 「京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅰ 1974・1975年度」京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980年  
「京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ 1976年度」京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982年  
「京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ 1977～1981年度」京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982年
- 註6 鈴木広・平田泰「16 平安京左京二条三坊九町」「昭和55年度京都市埋蔵文化財調査概要」(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 註7 森島康雄「平安京跡・旧二条城跡発掘調査概要」「京都府遺跡調査概報」第59冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994年
- 註8 上村憲章「平安京左京一条三坊六町・旧二条城跡」古代文化調査会 2012年
- 註9 中居和志「旧二条城跡」「京都府中世城館跡調査報告書—山城編1—」第3冊 京都府教育委員会 2014年
- 註10 「京都市文化財ブックス第20集 京の城—洛中洛外の城郭—」京都市文化市民局文化部文化財保護課 2006年
- 註11 註1と同じ
- 註12 註8と同じ
- 註13 馬瀬智光「3,旧二条城跡『言継卿記』・『信長公記』」「金沢大学考古学紀要」金沢大学人文学類考古学研究室 2015年
- 註14 松田毅一・川崎桃太郎訳「フロイス日本史 五畿内篇Ⅱ」中央公論社 1981年  
天正元年（1573年）  
「防御のため（織田信長と対峙した）城の周囲に新たに堀をつくり、弾薬を備え、兵士を集めた。城中は数千の兵力で、千人の射撃手がある。堀の橋はすべて外し、城の周囲に旗を立てたが、この城には三つの堀と幾つかの新たな稜堡を備え、落し難い城であった。」
- 註15 近藤瓶城編「統応仁後記」「史籍集覽」臨川書店 1984年
- 註16 「京都坊目誌」新修京都叢書 第2巻 臨川書店 1969年  
小松武彦「平安京左京四条三坊十五町・烏丸御池遺跡—御射山町の調査—」古代文化調査会 2015年

## 報告書抄録

ふりがな	平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡・烏丸丸太町遺跡
書名	大門町の調査
副書名	
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小松武彦
編集機関	古代文化調査会
所在地	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
発行年月日	西暦2016年12月25日

所取遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡・烏丸丸太町遺跡	京都市上京区櫻木町烏丸西入ル養安町242・大門町260	26100	1 243 246	35度 1分 89秒	135度 75分 87秒	2016年1月 12日～2016年4月30日	471m <sup>2</sup>	建物新築工事

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡・烏丸丸太町遺跡	都城跡・城郭跡・集落跡	弥生時代～古墳時代	包含層、土壙	弥生土器、土師器	武衛陣御所の溝・濠の一部を確認した。旧二条城の新たな濠を確認した。
		平安時代～鎌倉時代	溝、土壙、ピット	土師器、国産陶磁器、輸入磁器、焼締陶器、軒瓦、瓦、錢貨	
		室町時代～桃山時代	濠、溝、土壙、井戸、柱穴、柵列	土師器、国産陶磁器、輸入陶磁器、軒瓦、瓦、錢貨、石製品、石仏	
		江戸時代	石組、溝、柱穴、土壙	土師器、国産陶磁器、輸入陶磁器、軒瓦、瓦、錢貨、石製品	

# 図 版





1 A調査区第1面全景（北から）



1 A調査区第2面全景（北から）



2 A調査区第3面全景（北から）



1 A調査区第4面全景（北から）



2 A調査区柵列1・濠8（西から）



1 A調査区柵列1の柱穴57（北から）



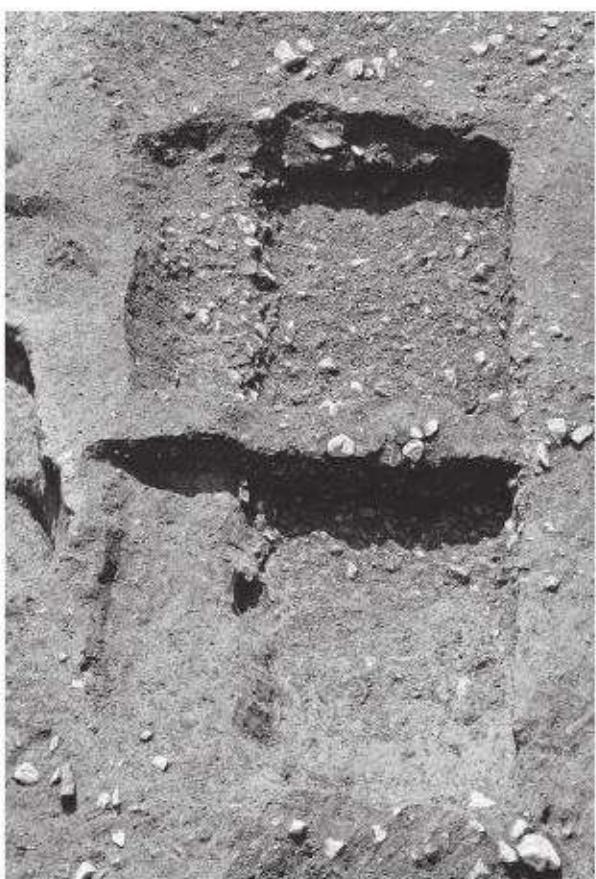
3 A調査区濠78A（西から）



2 A調査区石組遺構27（西から）



5 A調査区濠78B（北から）



1 A調査区土壤161（北から）



2 A調査区土壤177（西から）



3 A調査区弥生土器出土（西から）



4 A調査区濠8拡張（西から）



1 B調査区第1面全景（東から）



2 B調査区第2面全景（東から）



1 B調査区第3面全景（東から）



2 B調査区集石260断面（東から）



3 B調査区井戸295（南から）

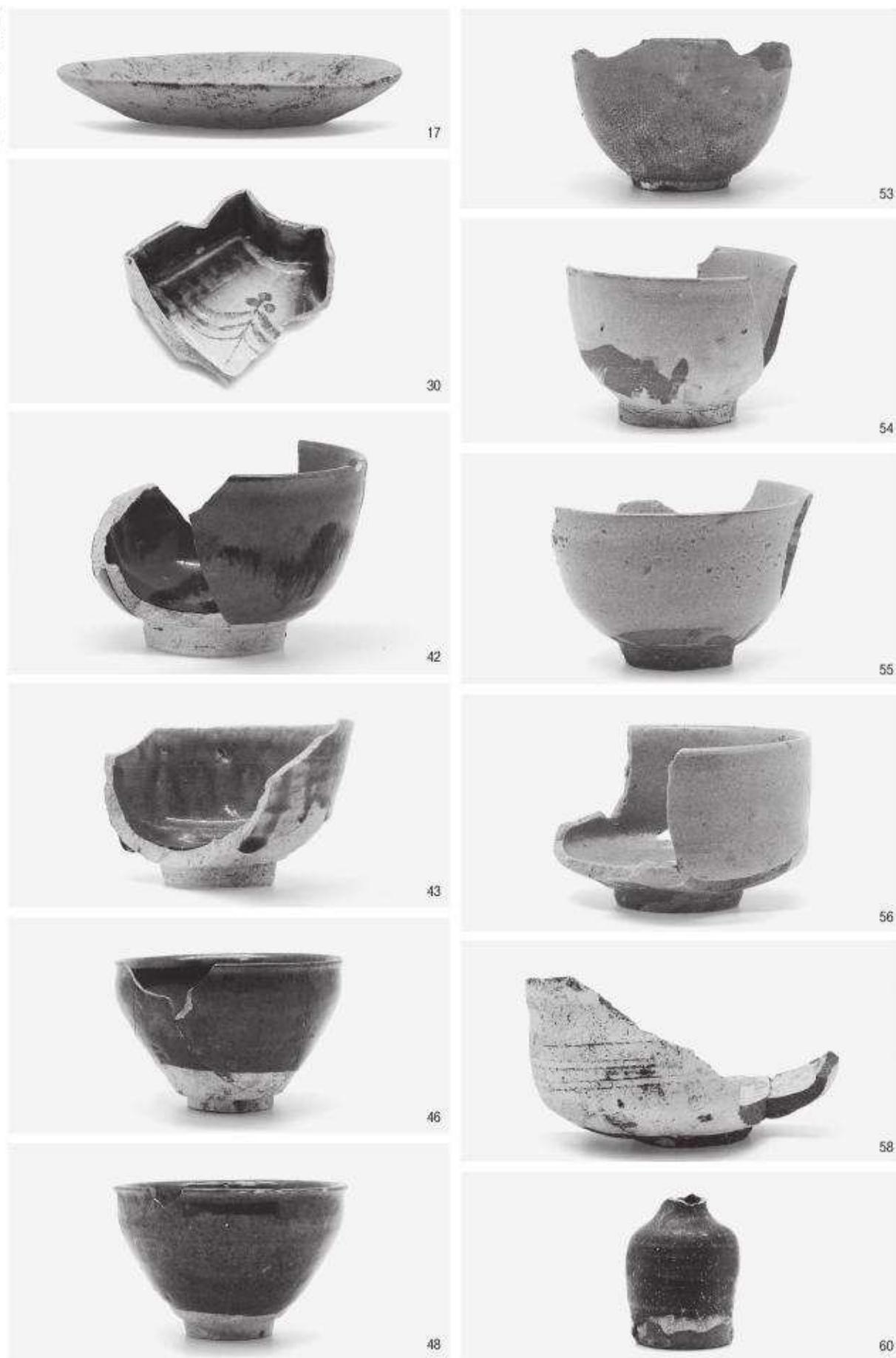


4 B調査区石室337（北から）



5 B調査区土壤407（北から）

圖版八  
遺物



石組遺構27出土遺物

86



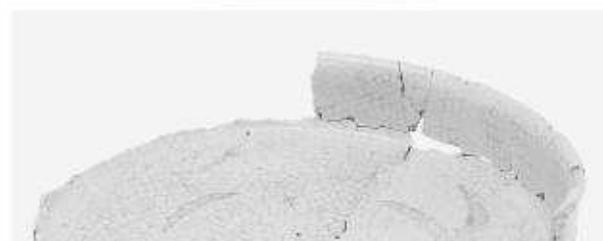
61



86



62



87



63



88



77



112



78



116



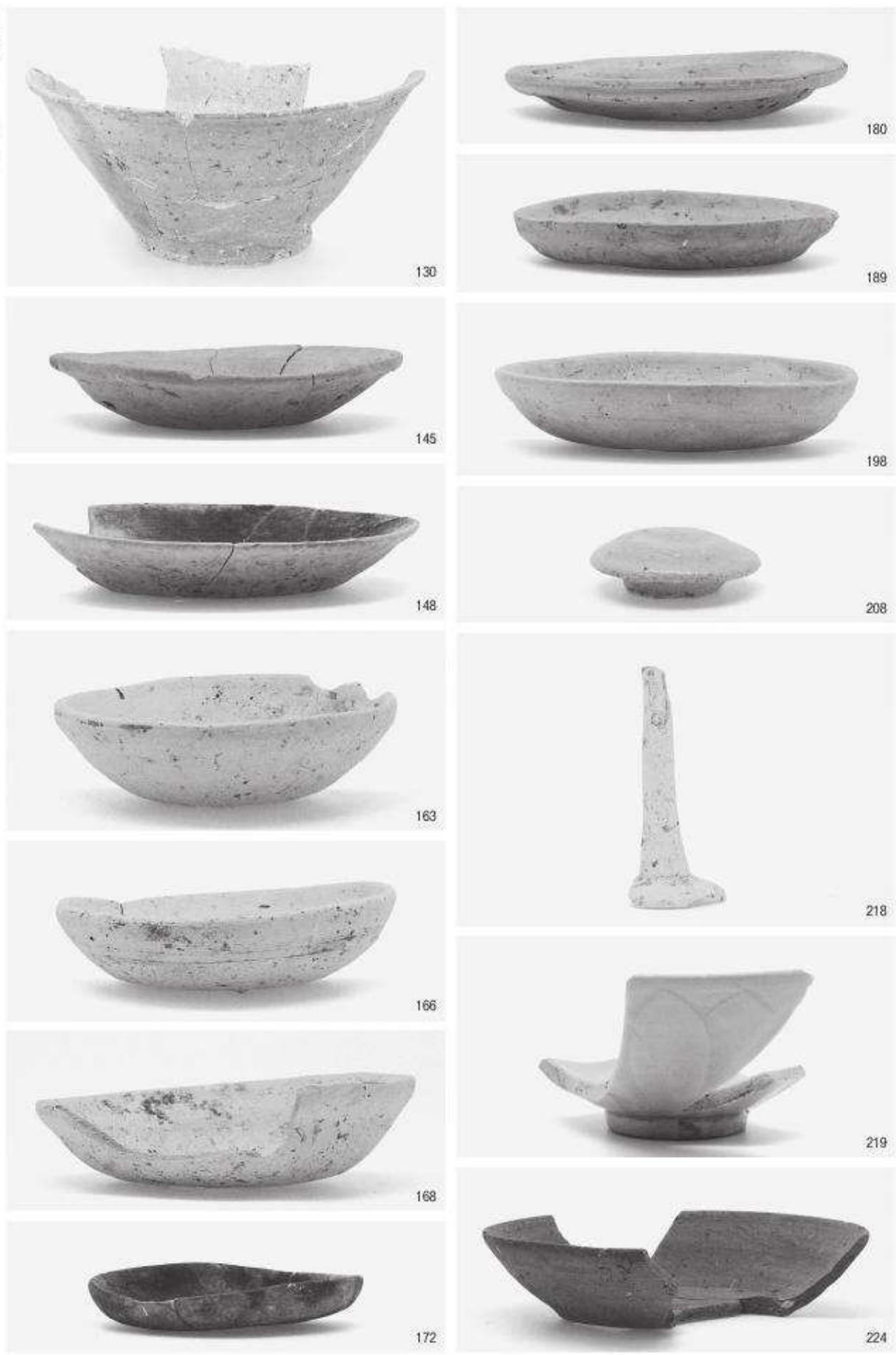
85



125

石組遺構27 (61~63)・濠8 (77・78・85~88)・溝38 (112・116・122・124・125) 出土遺物

圖版一〇 遺物



溝38（130）・土壤75（145・148）・土壤107（163・166・168・172）・溝116（180・189・198・208）・  
土壤161（218・219）・土壤178（224）出土遺物



土壤267(230)・土壤281(240~247)・第2面整地層(264)・土壤401(271)・土壤281(石1)・  
土壤360(石2)出土遺物



瓦 1



瓦 2



瓦 3



瓦 5



瓦 6



瓦 7



瓦 8



瓦 11



瓦 12



瓦 14

石組遺構27（瓦1・3）・B調査区第1面（瓦2）・濠8（瓦5）・濠78A（瓦6）・溝116（瓦7・8）・  
集石220（瓦11）・B調査区第2面掘下げ（瓦12）・土壤145（瓦14）出土遺物

# 平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡 烏丸丸太町遺跡

## —大門町の調査—

発行日 2016年12月25日

編集発行 古代文化調査会

住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404

TEL (078)857-6368

印刷 真陽社

〒600-8475 京都市下京区油小路仏光寺上ル

TEL (075)351-6034

